

FFG調査月報

MONTHLY REPORT

あなたのいちばんに。
FFG 福岡フィナンシャルグループ

1

2024
VOL.160

Top Interview

株式会社 アステック入江 代表取締役社長 入江 伸一郎 氏

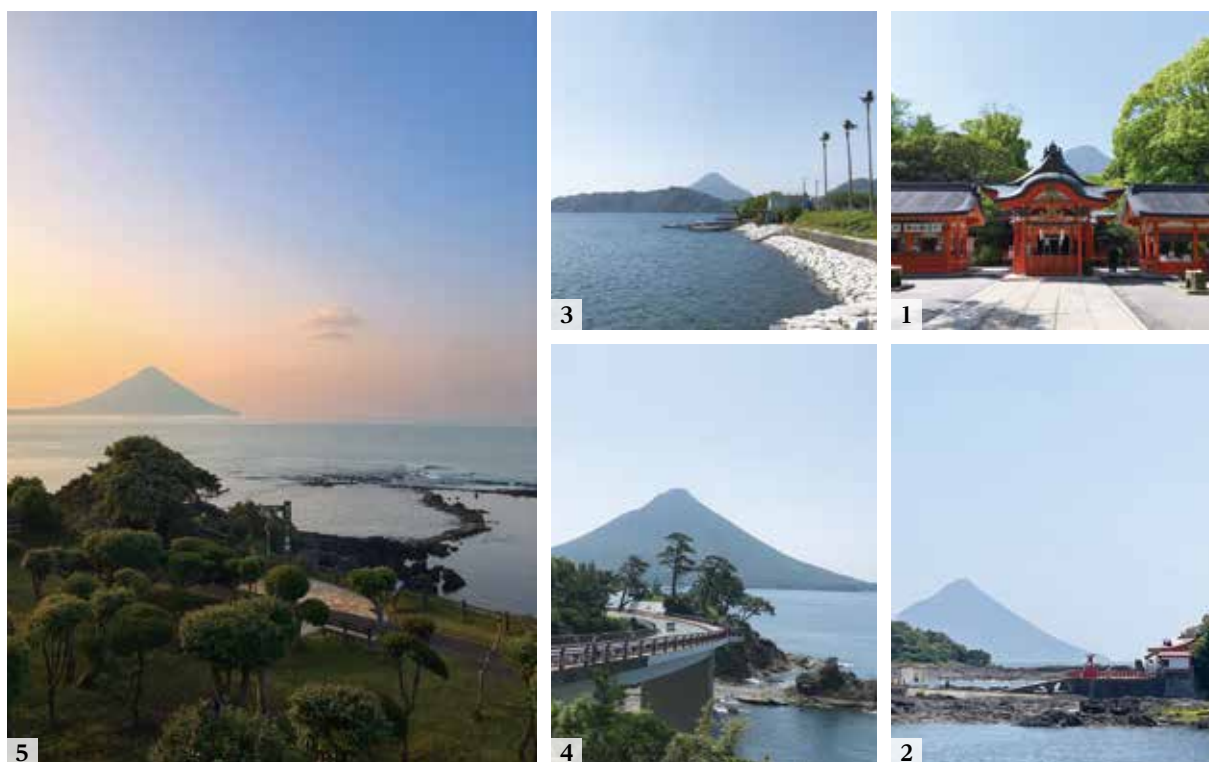
株式会社 マイステリア 代表取締役社長 工藤 正也 氏

株式会社 公精ブランド 取締役会長 坂本 公生 氏 ・ 代表取締役 坂本 充宣 氏

懐かしい
情景を
探して

Looking for a nostalgic scene

けだし天下の 絶景なり



▲1.枚間神社／2.射楯兵主神社(釜蓋神社)／3.池田湖から／4.瀬平公園から／5.番所鼻自然公園から

江戸後期、17年をかけ日本を測量した伊能忠敬は、番所鼻の船着場で海原から聳える開聞岳に感動し「これぞ日本一の絶景」と呟いた。日本百名山の選者、深田久弥も「高さこそ劣れ、これほど完璧な円錐形もなければ、全身を海中に乗り出した、これほど卓抜な…」と迷わず選んだ。

周辺には池田湖、薩摩半島最南端の長崎鼻、額娃町の大茶園があり、どこから見ても美しいその姿は「薩摩富士」とも呼ばれる。古来より霊山として信仰を集め、北麓の枚間神社の神体山として社殿の背後に山の高みが見える。

標高924mと聞いて簡単に登れるものと考えていた人は皆、異口同音に「思ったよりもきつい」とこぼす。山頂へ続く螺旋の一本道は変化に富み、頂からの360度の大パノラマは言葉を失うほどだ。

(文・阿井川 圭)



▲伊能忠敬絶景の記念碑
(番所鼻自然公園)

●番所鼻自然公園

住所：鹿児島県南九州市額娃町別府5202-1

●枚間神社

住所：鹿児島県指宿市開聞十町1366



CONTENTS



懐かしい情景を探して
けだし天下の絶景なり

Top Interview

- 2  福岡銀行
株式会社 アステック入江 代表取締役社長
入江 伸一郎 氏
- 8  熊本銀行
株式会社 マイステリア 代表取締役社長
工藤 正也 氏
- 14  十八親和銀行
株式会社 公精プラント
取締役会長 代表取締役
坂本 公生 氏 ・ 坂本 充宣 氏
- 20 Interview Before After
サンバック 株式会社 代表取締役 増田 淳 氏
- 26 地域とつながるFFG連携プロジェクト
進化を続ける伝統的工芸品「久留米絊」の
魅力発信、販路拡大支援

28 海外駐在員事務所が伝えるグローバルの今 **NEW!**
上海

30 START UP Company
株式会社 OneAI

32 GOLF TALK
ゴルフコーチ 篠塚 武久先生が
本当に伝えたかったこと。

42 地銀9行連携レポート 七十七銀行
水辺を活かした復興と賑わいづくりへの取り組み
ー宮城県名取市「かわまちてらす閑上」の事例よりー

46 九州の星
「第97回 装苑賞」「NEW ENERGY特別賞」ダブル受賞
上村 英太郎 氏

48 釣り道
釣り道のウラ道

49 長崎だより
合言葉は「五島のために」、
安心して暮らし続けられる島へ。
ひとりひとりの情熱が不可能を可能に変えていく。

バックナンバー
のお知らせ

「FFG調査月報」のバックナンバーは、ふくおかフィナンシャルグループのホームページにてご覧いただけます。



新年号のご挨拶

旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。
本年も変わらぬお引き立ての程よろしくお願い申し上げます。
皆さまのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

令和六年 辰年

表紙写真：ふくおかフィナンシャルグループ本社ビル



福岡銀行

鉄事業で培った確かな技術で、
「環境・リサイクル事業」の
さらなる発展を目指す。

株式会社アステック入江

いりえ

入江

いりえ

伸一郎氏

しんいち

ろう

代表取締役社長

取引店／福岡銀行 八幡支店

■会社概要

創業:1910年／所在地:北九州市八幡東区／
資本金:1億円／従業員:739名(2023年7月期)
／事業内容:鉄事業、鉄関連事業(環境・リサイ
クル事業、住宅事業、機材事業、ファインセラミ
ックス精密加工事業)／事業所:本社、八幡支店、
大分支店、光支店、FM事業部(八幡工場、広畑
工場、都市鉱山リサイクルセンター響工場)、セラ
ミックス事業所(堺工場、響工場)

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





当社八幡支店前(左から入江社長、五島頭取)

官営八幡製鐵所の 請負業者として創業

「株式会社アステック入江」は、2024年2月に創業114年を迎えます。創業者であり私の曾祖父にあたる入江賢助^{けんすけ}は、香川県出身。進取の気性に富み、単身で福岡に渡り、官営八幡製鐵所（現・日本製鉄株式会社）内で働くことになりました。そして製鋼荷役運搬の下請け業者として1910年に「入江組」を創業。これが当社の前身となります。

戦後1948年の「職業安定法」によって、一時は請負作業を直営に返上し、製鐵所内の資材納入業のみと大幅な業容縮小を強いられました。地道な努力を続けた結果、1957年に法人化。「株式会社入江組」と改称するとともに、製鐵所内で主に製造工程で発生する付帯作業である製鋼利材作業を獲得することができました。

1960年には社名を「入江興産株式会社」に変更。1992年に現在の社名である「アステック入江」となりました。この社名には「明日（ニアス）を目指す技術（ニテクノロジー）の入江」という意味が込められています。

日本を代表する製鐵所の 協力会社としての確かな信頼

当社は日本を代表する製鐵所の協力会社として事業領域を拡大してきました。1964年、旧八幡製鐵株式会社（以下、八幡製鐵）が大阪の堺製鐵所を建設するのに合わせ、私たちも関西に進出。八幡製鐵は同じ年には、山口県光市にも光鋼管工場を開設しています。

その後の1980年代のいわゆる「鉄冷え」によって堺製鐵所は休止し、当社も撤退を余儀なくされました。しかし、関西進出を果たしたノウハウを活かし、1987年に半導体製造機器などに使われるファインセラミックス精密加工を担う「堺セラミックスセンター」を改めて開設しています。

また、1970年には「世紀の大合併」と評される「八幡製鐵」と「富士製鐵株式会社」との合併で「新日本製鐵株式会社」が誕生します。私たちも同年、この合併によって新設された大分製鐵所への進出を果たしています。ここはそれまで繋がりがなかった旧富士製鐵系の製鐵所で、九州という地の利を活かせる利点はあったものの、巨額の投資資金が必要だった



5



3 1



6



4 2





入江社長

こともあり、当時は社運を賭けた進出になりました。

これらの鉄事業は当社の中核事業であり、日本製鉄株式会社（以下、日本製鉄）九州製鉄所内の八幡、大分、光の3支店を中心に、500名を超える労働力と設備提供型の協力会社として現在に至っています。私たちが全国26社ある日本製鉄の一次協力会社として信頼を得ている理由には、長年にわたる安全安定操業の担い手であったことが挙げられます。その安全力および操業力を継続し、社会的な信用を獲得したことが、今日の業容拡大や採用の強化につながっています。今後も、これまでの実績と技術力を活かして日本製鉄と

更なる関係性の強化を図るとともに、鉄事業をより強固なものとしてまいります。

鉄事業で培った技術を活かし 独自の「環境・リサイクル事業」へ

1980年代に入ると鉄事業で得た技術力を基に、新たな事業に着手します。それが「環境・リサイクル事業」であり、私たちはそれを「鉄関連事業」と名づけています。

まずは、鉄粉の回収・販売、そして塩化鉄液の回収・再生・販売というリサイクル事業を「ファインメタル（FM）事業」として展開しました。旧新日本製鉄と共同で日本初の塩化鉄液リサイクルの研究を開始し、1994年に当社に作業が移管されたのを受け、FM事業部八幡工場を開設しています。

この塩化鉄液リサイクルでは、製鉄所内、特に製鋼工程で発生する集塵ダストを集め、鉄粉を製造。半導体部品のリードフレームメーカーや基板プリントメーカーなどで発生する使用済み塩化鉄液に対して、当社の鉄粉を利用することで使用済み塩化鉄液から銅やニッケルなどの有価金属を回収し、回収後の塩化鉄液は新液としてリサイクルします。現在では



10 8



7



9



1.対談風景／2.本社工場／3.転炉を見学／4.溶銑を運ぶ溶鋼鍋を補修する鍋センターを見学／5.溶鋼鍋の補修に用いる耐火煉瓦。溶鋼鍋ひとつあたり約15,000枚が使用されている／6.7.転炉で発生した不純物をリサイクルするために行う急冷処理（転炉スラグ処理）を見学。当社は転炉スラグ処理の独自技術の特許を保有している／8.ファインセラミックス精密加工風景／9.廃電子基板と採取した金で作成した金メダル／10.企業メッセージ



前列左3人目から水城取締役、入江社長、五島頭取、吉田支店長（福岡銀行）、後列左2人目から八幡支店梶原副支店長、吉野支店長

当社独自の技術を用いた鉄関連事業の中核として成長しました。

各種大会の再生「金メダル」も！

「都市鉱山リサイクル事業」で 新たな可能性を探る

最近、特に注目されているのが「都市鉱山リサイクル事業」です。当社では他社との差別化を図り独自の技術を確認。銅のリサイクルをメインに、金やレアメタルのリサイクル事業を展開しています。

さらには独自の都市鉱山リサイクル設備「アステックシステム（Astec System）」を開発。その販売を国内中心に開始しましたが、蓋を開けてみると海外からの見学者や問い合わせが相次いでいます。

パソコンなどの内部に組み込まれている廃電子基板から有価金属を回収する場合、基板を破碎して有価金属を取り出すことが一般的です。しかし当社のシステムでは、部品の固定に使われるハンダを溶解溶融し、小さな部品まで基板から剥離した後、AI（人工知能）を用いた自動選別機によって選別します。その後、塩化鉄液を使用して銅やニッケルを溶解し、金や

銀。パラジウムを回収。塩化鉄液を再生し、販売するというリサイクル事業を確立しています。さらに、この「都市鉱山リサイクル事業」で採れる金を活用した再生「金メダル」は、京都マラソンを始め、下関海峡マラソンや北九州マラソン、2021年に北九州市で開催された世界体操・新体操選手権でも採用されました。

◇ NEXT STAGE ◇

明日に向かって果敢に挑戦

NEXT STAGE
established in 1910

当社は、お取引先さまと従業員を大切に、「信頼」の社是の下に100年企業として歩んできました。私は2005年に入社し、2022年10月に代表取締役就任。その後から経営理念の一部の改定に着手しました。現代のニーズに合わせて、社員が互いを尊重し、サステナブルな社会の形成に貢献できる企業として、さらに成長をしていきたいと思っています。一人ひとりの社員の持つパワーを大きなエネルギーに変えていくためには、1年ごとはもちろんですが、中長期にわたるビジョンが必要であると考えました。

そこで生まれたのが2024年以降のスローガンである「NEXT STAGE」です。

これは、経営理念やビジョンの実現そして未来を築いていくために、社員とともに力を合わせて企業改革に挑み、未来に向けて次のステップを歩むことをスローガンとして掲げます。

また、2024年の会社方針は「人づくりの推進」です。会社の目指す方針や方向性を理解し、その方向性に向かって部下を育成し、ボトムアップ型・価値共創型組織への転換を図っていきたく考えています。

少子化の影響で人材確保の難しい状況が続いています。その解決のためには、環境・リサイクル事業をはじめ新しい分野への挑戦をしっかりとアピールしていくことが重要です。さらにはDX（デジタルトランスフォーメーション）化を進め、業務を効率化することで、全社員が活躍できる場が広がるのではないかと模索しているところです。

社長に就任するに当たってはできる限り社員と対話し、あらゆる意見に耳を傾けました。その中で感じたのは、若い社員であっても高い志を持っていること。彼らの仲間意識を高め、絆を強くすることで、組織力が強化されると感じました。「明日に向かって果敢に挑戦し続ける」集団となつて、激変する社会情勢に対応していきたいと思っています。

■ インタビューを終えて

福岡銀行 取締役頭取 五島 久

当社は、我が国の産業近代化の象徴である「八幡製鐵所」の時代から、長きにわたり協力会社として重要な工程を担ってこられました。大事にしてこられた「お取引先と従業員を大切にする精神」には、「あなたのいちばんに。」をブランドスローガンとする私たちも強く惹かれます。

これまで培ってこられた技術は、都市鉱山リサイクル事業にも活かされており、斯界の注目を集めています。「NEXT STAGE」の新スローガンのもと挑戦を続ける当社が、“ものづくりニッポン”を新たなステージに誘ってくれるものと期待します。





 熊本銀行

培ってきたテクノロジーで
社会の課題解決に挑み
次世代に誇れる未来を創る。

株式会社マイスティア 工藤 正也 氏

代表取締役社長

く どう せい や

取引店／熊本銀行 武蔵ヶ丘支店

■会社概要

創業:1986年／設立:1990年／所在地:熊本県上益城郡／資本金:5,000万円／従業員:1,750名(グループ)
／事業内容:製造装置・精密機械の企画開発から製造販売、組込みIoTシステム及び周辺機器の企画開発から製造販売、自社ブランドAIソフトウェアの研究開発から販売、精密機械等のメンテナンス及びフィールドサービス、半導体及び材料の評価・解析サービス、製造業全般における業務請負、水産養殖システムの企画開発から製造・解析サービス、キャリアコンサルティング・人財紹介・人材派遣／事業所:本社、合志本店・Fab1、i-tec・Fab2(合志市)、ロボットソリューションセンター・Fab3(合志市)、和木工場(玉名郡)、関東プラント(神奈川県川崎市)、関西プラント(大阪市)、hav(天草市)、名古屋サービスセンター、広島サービスセンター、大分サービスセンター、鹿児島サービスセンター／関連会社:TREASURE OF TECHNOLOGY AMERICA INC.、特瑞科技有限公司(tretec台湾)、修恩科技有限公司(husers台湾)、修思机械科技有限公司(husers中国)、マイスティアヒューマンリレーションズ株式会社、株式会社電研テクノ、株式会社パワテック

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





本社前にて(左から工藤社長、野村頭取)

地域の製造業を対象とした 人材ビジネスで創業

当社が熊本市で事業を開始したのは1986年。電子部品メーカーに勤めていた私が29歳で独立起業してのスタートでした。会社員時代に業務の社内外注を担当していた経験をもとに、当時はまだ「人材派遣」という言葉が一般的に知られていないなか、地域の製造業関連の企業を対象とした人材ビジネスの仕組みを構築したのがきっかけです。

4年後の1990年には、当社の前身である「有限会社ヒューマン」を設立し、その2年後には株式会社へと組織を変更しました。さらに、1996年には「トレジャーオブテクノロジー株式会社」を設立。このあたりから、ソフトウェア開発、機械・電気設計といった分野へと軸足を移していきました。

とくに、熊本では当時から半導体関連企業の進出が相次いでおり、そうした状況に伴って半導体業界における作業請負などのサポート事業を展開しながら、当社は成長してきました。

現在では、製造装置、精密機械、IoTシステムや周辺機器の企画開発と製造販売、ソフトウェアの研究開発、半導体とその材料の評価と解析、精密機械のメンテナンスといったサービス

を中心に展開しています。「人のため世界のために進化するテクノロジーを使いこなし、次の世界に誇れる未来を創造する」というビジョンを掲げて、本社を含め熊本県内に6か所、県外6か所の事業所を構えるほか、国内外に8社のグループ企業を有して活動が続けています。

半導体技術の進化を熊本から ワールドワイドにサポート

私たちの暮らしを豊かにし、より理想的な世の中をもたらすスマート社会を実現するテクノロジーは、世界中で進化し続けています。そのテクノロジーのひとつである半導体技術はスマート社会において、人の体における頭脳や感覚、神経といった役割を担う重要な構成要素といえます。

半導体の基本性能や供給を支える製造装置は絶えず進化を続け、装置性能を発揮すると同時に維持させるためのメンテナンスにも高度な技術力がますます求められるようになっていきます。そして、半導体製造拠点には、爆発的な需要に 대응するために世界中に工場を展開しており、製造装置に携わるメンテナンスエンジニアにも展開に連動したワールドワイドな活動が求められています。



5



3 1



6



4 2





工藤社長

そうした状況下、半導体を生産する技術、半導体製造装置を開発しメンテナンスする技術の多くに関しては、日本が世界をリードする立場にあります。とりわけ熊本は、半導体生産技術と半導体製造装置技術が集約しており、製造装置は生産の要となる工程で高いシェアを誇っています。

当社では、熊本から世界中へ供給される半導体製造装置をサポートしながら、2007年にアメリカ、2016年には台湾、2019年に中国といった半導体の主要生産エリアに現地グループ企業を展開し、さらなる需要拡大に備えて世界中をカバーできるサポート体制の構築に取り組んできました。

その具体的な施策のひとつが、世界中の工場から求められる、最新技術を身に付けたエンジニアと、現地のお客さまのニーズを把握したエンジ

ニアが世界規模で連携し、各製造拠点を支える「World Fabサポートチーム」の編成です。さらに、最前線のエンジニアたちを最新技術や装置に精通した集団にする支援ツール、最新のICTやAI技術を導入した「World Fabサポートシステム」を開発する活動を通じて、お客さまの生産拠点展開に貢献していきます。

培ってきたノウハウを駆使し 生産現場が抱える課題を解決

当社の技術は、人々が豊かに生活するうえで不可欠なものを生み出している製造工場、多様で感性豊かなものづくりの現場を支えるのにも役立っています。

近年は、高齢化や労働人口の減少によって、ものづくりの高度な技術の継承が困難になりつつある状況にあります。私たちは、これまで培ってきたロボット技術に加え、画像技術を始めとするAI技術などの有用なテクノロジーを有しています。そこに多様な経験値とノウハウを蓄積したエンジニアを融合し、生産現場でものづくりに従事されている方々とともに直面する課題を捉えて、スピーディに解決し、高次元の要望にも応えられる製造システムの創出に力を注いでいます。



- 1.対談風景／2.3.工藤佳太取締役(2.の右端)によるロボットソリューションセンター・Fab3の説明／4.5.落ち着いた雰囲気のリフレッシュスペースを見学／6.システムインテグレーション事業部の坂本事業部長(左から2番目)による工場の説明／7.クリーンルーム／8.合志本店／9.i-tec／10.ロボットソリューションセンター・Fab3の外観／11.企業メッセージ



本社内にて。前列左から中津常務、工藤佳太取締役、中村専務、工藤正也社長、野村頭取、東支店長（熊本銀行）

長年にわたって培ってきた生産現場での経験、あらゆる生産現場の課題を解決してきた生産装置やロボットシステムなどのインテグレーション技術と導入実績、さらにIOTやAI技術などの開発やそれらの技術を駆使したシステム提案力を強みとして、各生産現場における活動を総合的に支援するソリューションを提供していきます。

人間の能力拡張開発で 労働人口減少問題に挑む

今や避けることのできない労働人口減少問題に対しては、業務改善や職場環境整備だけでは追いつかない生産性を向上させる取り組みが急務とされています。

当社では、個人の業務遂行能力を高め、対応範囲を拡大するために、人そのものの能力を高めるサービスを、課題を抱える多くの産業や業界に提供していきたいと考え、取り組みを進めています。

能力の補完を目的とした「能力拡張開発」では、業務を遂行するために必要なテクノロジーや情報リテラシーを活用すべく、生身の人間に情報機器やさまざまなデバイスを装着します。

通信モジュール、コントローラー、情報端末、表示デバイス、バッテリーなどを装着した人が、常にインターネットに接続された状態で自由に移動できるため、人間自体がIoTとなるのです。そのため、収集した情報のアップロード、ビッグデータ利用、AI解析、結果のダウンロードといった一連の情報をロケーションフリーで取り扱うことで、タイムリーに新たな価値の創造やサービスの提供が可能となります。

地域産業の持続に貢献する 次世代水産養殖システム

熊本を始めたとする日本全国で地場産業が、人口減少とともに衰退する状況が深刻化しつつあります。とくに、最新テクノロジーから縁遠いとされる第一次産業では、新分野技術の取り込みが円滑に進まないのが現状です。

そうした現状打開と課題解決のために私たちがができることを、と模索した結果、IoT、AI、ロボットを活用した、海面および陸上養殖システムの開発に乗り出しました。

たとえば、水産養殖向けの開発では、魚の活性状態や養殖環境を予測するAIを開発する一方、ロボット技術を駆使した、人とAIの両方からリモート制御できる海面養殖ロボットシス

テムの実証実験を進めています。このようなシステムの開発は、海に潜ったり危険が伴う作業のリスクを軽減する効果が期待できます。

苛酷な海で実証実験を繰り返して鍛え抜いた一連のシステムは、陸上養殖や他の産業にも展開できるものと考え、天草の海で未来につながるデータを収集し続けています。

100年に一度の好機を捉え さらなる躍進を目指して

当社のコーポレートスローガンは、「HUMAN IZM」^{ヒューマンイズム}。「人」こそが限らない価値の源とする「前身の社名」に込めた思いを未来へ継承していくつもりです。また、2019年に変更した現社名は「熟練」「匠技」を表す「meister」^{マイスター}と、「新分野」「開拓者」を意味する「frontier」^{フロンティア}を合わせたもので、「匠の技を継承して新境地を目指す」という願いが込められています。

半導体の世界的大手進出を機に、熊本にとって「100年に一度のビッグチャンス」とされるタイミングが到来しつつある今、当社もマンパワーをさらに高めて、グローバルに変化を創造する企業として歩みを進めてまいります。

■ インタビューを終えて

熊本銀行 取締役頭取 野村 俊巳

半導体需要への対応を軸に、お客さまのご要望にお応えする形で技術力を蓄積しながら、問題解決につながる仕組みの提案と、新規製品やサービスの開発によって、着実に事業領域を拡大してこられました。

また、「合志市民まつり」への参加や職場見学の受け入れ、経済産業省「地域未来牽引企業」の認定、熊本県による「地域未来投資促進事業」の採択からもわかるように、地域貢献にも積極的に取り組んでおられます。

TSMCの進出で世界的にも注目が集まる半導体関連集積地の熊本において、ますます存在感と影響力を発揮されますよう願っています。





Top Interview



トップに聞く!

十八親和銀行

国内屈指レベルの

精密部品加工技術で世界へはばたく。

株式会社公精プラント

取締役会長

さかもと

きみお

坂本公生氏

代表取締役

さかもと

あつのり

坂本充宣氏

取引店／十八親和銀行 国見支店

■会社概要

創業:1980年／所在地:長崎県島原市／資本金:
1,000万円／従業員:24名／事業内容:精密部品
加工、ラビリンズ、弁バルブ、射出成形機部品、
半導体及び液晶パネル関連装置部品の製造、
アルミ・ステン・チタン材を中心に高精度加工/
関連会社:株式会社コウセイプランニング

会社ホームページは
こちらからどうぞ!





事務所前
(左から坂本公生会長、坂本充宣社長、山川頭取)

高い技術力をアピール 大手メーカーから 信頼される企業に成長

実家はもともと農家を営んでいました。現会長である父、坂本公生は「自分は農業には向いていない」と家を離れ、旋盤の技術者として働いていました。しかし、実家に帰ることになり、会長はその時身につけた技術を活かそうと、家の一角に旋盤加工の機械を置き、1980年に創業しました。

プロとして磨いた加工精度の高いものづくりの技術で、地元の三菱重工業株式会社の三次請けからスタートしました。高い評価を得ていたものの、次第に人件費が安価な中国での製造に代わっていく中、これまでの技術を活かす場を模索した結果、半導体・液晶・パネル関連装置部品といった精密部品加工に特化した製造に踏み切ったのです。

当社の製品をアピールするために足を運んだのが、各地での展示会でした。その頃は二次請けがほとんどであったことから、当社製品の良さを直接多くの方に見て、触れていただく必要があったのです。展示会では、メーカーの方から「これはうちで使っているものですね」

と声を掛けていただくことも多く、そこから一次請けの受注が広がっていきました。

長崎県島原市という地方に工場があっても、製品そのものが大きくないため、完成したものは宅配便で全国各地にすぐにお届けできます。その製品は国内だけでなく、世界の半導体などの製造機械の部品として広がっています。「島原から世界へ」と私たちが掲げているスローガンの通り、高い技術で確かな製品を作り続けてきたことで、多くのメーカーから信頼をいただける企業として成長しています。

「99点は0点」が信条

第二工場には

ロボットシステムも導入

創業者である会長は、製品づくりについて「99点は0点」であることを信条としてきました。精密部品というのは、1,000分の1のズレや歪み、ほんの小さなすり傷も許されません。少しでも失敗すれば、その製品は出荷することができないのです。

扱っている素材は約60%がサビに強いステンレス、次いでアルミニウム、そしてチタンとなります。このような金属であっても、温度によって



5



3 1



6



4 2





坂本充宣社長

わずかに膨張し、設計通りにいかないことがあるのです。工場内は常に20〜25℃以内に保っていますが、それでも生まれる膨張などを考慮し、微調整をしながら加工しています。

当社の工場には複合NC旋盤、CNC旋盤、立形マシニングセンタなど各種精密機械を導入しています。中でも複合NC旋盤は他社に先駆けて導入し、現在も常に最新の装置を導入し続け、その台数は国内でも有数であることが強みとなっています。この複合NC旋盤は、多方向から複雑な形状を安定的に加工できるため、メーカーからのあらゆる要望に応えることができます。

さらに2020年に新設した第二工場ではロボットシステム搭載の自動旋盤加工機を

4台導入。コロナ禍で受注が増えていく中、これにより夜中でも無人で作業が進められるようになり、効率性やスピードがさらにアップしました。

課題は人材の確保 確かな製品づくりは 技術の継承が重要

このように常に最新の設備を導入していたものの、コロナ禍でオンライン化が一気に進み、例えば多くの学校がタブレット端末を導入するなど半導体の需要が大きく伸びました。当社にも、かつてないほどの受注が来るものの人手不足もあり、生産が追いつかないといった状況が3年ほど続いていました。2023年の夏ごろになってようやく生産が落ち着いて、従業員たちも定時で帰れるような日々が戻ってきたところです。

それでもあらゆる産業で半導体が必要とされるようになり、今後も需要は高まっていくと思います。そこで問題になってくるのが人材の確保です。しかし、島原という地に世界に誇れる技術を持った企業があることを、私たちも特に宣伝しなかったこともあり、あまり知られて



1.対談風景／2.当初設立時会長が使用していた機械の紹介／3.工場案内／4.工場内の女性の活躍姿／5.機械では出来ない手作業加工／6.7.国内屈指のレベルを誇る精密加工品／8.第二工場のロボットシステム／9.青パパイヤ栽培風景／10.関係会社にて生産した青パパイヤを利用したアレンジ商品／11.ロボットと企業メッセージ



最前列左3人目から坂本公生会長、坂本充宣社長、山川頭取、井手支店長（十八親和銀行）

いませんでした。

従業員は全員が地元の人たちです。そこで、まず精密機械加工というのがどういうものなのか、工業高校の先生や生徒さんたちに知ってもらおうとインターンの受け入れを始めました。半導体という言葉も最近になって一般的になり、高校生たちもスマートフォンに使われていることなどを話すと興味を持ってもらえます。

ただし、技術を修得するには少なくとも3年はかかります。先輩の指導の下で学び、多くの失敗を繰り返しながら一人前になっていきます。平均年齢は35歳。女性の従業員も多く、ベトナムからの実習生もいます。

わずかな歪みも許されない、私たちの高度な技術を修得することは簡単ではありません。「失敗してもいいから」と、若い人たちにはとにかく作業に慣れてもらいつつ、どこに問題があるかを数値化し、先輩の仕事を見て覚えるのではなく、一緒になって目に見える形で伝えながら育つ環境を整えました。

最新の機械を導入したとしても、高い品質を保つためには「人」が重要です。実は同じプログラムであっても、人によって製品は違ってきます。全員が同じ品質を保つために当社独自



坂本公生会長

の基準を設け、それらを徹底して継承してきたからこそ、高い信頼を得る製品が生まれるのです。

青パイアの栽培、加工と 新たな分野での事業も

目指すは「小さくても強い」会社

2021年、私が代表に就任しました。現在の最大の課題は、当社のことを広くアピールして人材の確保をすること、そして新しい技術についても常にアンテナをはっていかねばならないことと思っています。世界的な半導体需要によってニーズが高まる中で、ロボットシステムによる自動化などの効率性を高める

のはもちろん、同時に人材確保のために福利厚生や給与もしっかりと整え、「小さくても強い」会社でありたいと願っています。

一方、会長である坂本公生は「株式会社コウセイプランニング」を立ち上げ、技術コンサルティング、海外への技術指導、特産品販売という新しい事業を展開しています。農業が盛んな島原半島の気候を活かして、青パイアの栽培を開始しました。

青パイアとの出会いは、当社がベトナムに半導体製造の技術支援を行っており、会長が頻繁に現地を訪れたことが始まりです。自身で栽培したところ驚くほどに元気に成長したことから、島原半島では初めてとなる自社畑による有機肥料と無農薬栽培による青パイア栽培を、本格的にスタートさせたのです。

青パイアには、パイア酵素などのたくさんの栄養素が含まれており、それらを活かしたお茶やパイア粉末を利用した石けんなどの加工製品を生み出しています。これらの製品には、当社が培ってきた加工技術も活かされています。将来は、精密機械部品加工と二枚看板になる事業として発展させていけたらと考えています。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行 取締役頭取 山川 信彦

1980年にご自宅の一角から創業されて以降、確かな技術力を背景に40年以上に亘り着実に歩みを進めてこられました。「島原から世界へ」というスローガンの通り、その高い技術力と九州随一の最新設備を兼ね備えた工場から作り出される製品は、半導体関連の大手メーカーなど取引先から厚い信頼を得ていらっしゃいます。

「他の企業ができる仕事はしない」という会長のお言葉が大変印象に残りましたが、今後につきましても、当社の技術力を活用した新規事業の展開、島原半島初となる自社畑による青パイアの有機・無農薬栽培など、島原半島から世界へ羽ばたく企業として、ますますの発展を期待しております。



Interview
**Before
After**

vol.04

大手グループ参入と合併を経て 包装のトータルサポーターに成長

本社と工場が一体化した
新拠点で次のステージへ

サンパック 株式会社

本社
福岡県筑後市野町500番地
TEL:0942-53-8471



1972年の設立以来、顧客のあらゆる要望を実現するために、包装資材や紙器、ラベルシールなどによる高付加価値製品の提供に注力。企画・デザインから製造、納品まで、ワンストップサービスで迅速に対応。新拠点では、最新設備を導入して生産拡大とサービス拡充を目指す。





サンパック 株式会社

代表取締役 **増田 淳 氏**

1969年 大阪府大阪市生まれ
1999年 株式会社メイワパックス入社
2011年 代表取締役社長就任
2013年 サンパック株式会社 代表取締役就任

迅速で柔軟な対応力で 地域の顧客を開拓し躍進

サンパックの前身となる会社を初代代表の目野邦彦が興したのは、およそ半世紀前の1972年のこと。包装資材を取り扱う会社から一緒に独立した3名とともに、包装資材卸売業を開始しました。

当初は、みやま市瀬高町にある瀬高駅前のタクシー会社待合所の2階、わずか5、6坪の場所を間借りして、倉庫兼用の事務所を構えていたと聞いています。

規模は小さな会社でしたが、お客さまのご要望への対応力が少しずつ評判となり、徐々にお取引先の信頼を獲得して売上を伸ばしていきました。お客さまが必要な分を、毎日自社便で供給する。イレギュラーな注文が入れば、迅速に対応して届ける。そうすることで、大手にはなかなかできない、「小回りがきいて使い勝手のよい会社」として、より多くのお客さまに認知されていったのです。

お取引が増していく中で、1989年には現本社工場の隣に事務所を移転し、大きな倉庫を建設しました。この倉庫を建てたことで

サービスが広がり、扱う商材の幅やアイテム数を増やして、お客さまの更なるニーズに対してこまやかに対応できる会社へと、着実な進化を遂げていきました。

お客さまのあらゆるご要望にお応えして、ワンストップサービスのスピーディーな対応で高品質な商材をお届けするという事業姿勢は、創業当初に育まれたものであり、今も変わっておりません。

メイワパックスグループ 参入からグループの3社合併へ

当社の歴史において、最初の大きな転機が訪れたのは、2013年。事業後継者の問題から、大阪および東京に本社を置く株式会社メイワパックスのグループへ参入する運びとなりました。

メイワパックスは同じ業界の企業で、包装分野のなかでもプラスチックフィルム素材とする軟包装のプロフェッショナル集団として知られています。国内に8か所の自社工場を有して、質の高い製品を一貫生産し、安定的に供給できる体制を構築。食品、医薬品、



増田 淳 代表

化粧品、電子材料、工業材料など、軟包装資材の用途は多岐にわたっており、これまでに手がけてきた製品は10万種におよびます。そして、サンパックにとって次の転機となるのが、当社を含むメイワパックスグループの3社が合併統合した2019年。サンパックが、福岡シール株式会社と久留米精版印刷有限会社を吸収合併する形でした。

当社と合併したこの2社は、もともと当社との事業面での結びつきが強かったため、メイワパックスグループにおける九州拠点としての統合は、事業の合理性の点から理にかなった展開だったといえます。その経緯を遡れば、サンパックの高度な対応力に端を発しており、お客さまのニーズにお応えべく最適な包装資材を提案する過程で、自社でまか

なえない物を外部委託で調達していたビジネススタイルが生んだ関係性でした。包装資材への高精度な印刷を得意とする久留米精版印刷、包装資材や商品に貼付するシールやラベルを製造する福岡シールは、それぞれの強みをもった、サンパックにとっては欠かせないビジネスパートナーだったのです。ですから、お客さまのご要望に対して、あらゆる方面から手厚くサポートできる総合力こそ、現在の当社が誇る提供価値といえます。商圏は福岡だけにとどまらず、九州全域、更には首都圏などのお客さまのビジネスにも関わっています。市場を見きわめるマーケティング、きめこまやかなプランニング、



旧工場

独創的な設計・デザインのソフト面からのサポートに始まり、高品質のパッケージ、効果的な販促資材の提供というハード面のサポートにいたるまで、トータルでお客さまの課題解決に貢献しています。

当社の取り扱う商材は、工業用品、ギフト、食品、衛生用品、医薬・化粧品品の各業界に対して、フィルム、紙器、包装材、成形品、ラベル、販促物と多岐にわたります。たとえば、紙器事業については、化粧品、ギフト用パッケージを始め、包装紙や紙袋など紙製品をデザイン段階からご提案しています。シール・ラベル事業では、独自性の高いコールド箔（メタリックな輝きを放つ高級感のある箔加工）や



さまざまな形状・デザインの紙器を提案している



販売促進効果の高いアテンションシール



高い品質で多くの製品を受注

POPラベル（店頭・陳列棚用の販促ラベル）から一般シールまで、あらゆるシールを手がけています。そのほかの取り扱い商品についても、1万点以上の資材調達ネットワークを駆使してご要望に合わせたご提案をおこなっています。

なかでも、食品加工メーカーさまとの付き合いは深く、「この食品にはどんな包装が必要か」「配送にはどんな配慮が必要か」といった点に関する情報を豊富に有しているため、当社のノウハウはお客さまから大いに頼りにされています。

また、紙器製造、シール製造においては、自社で一貫生産できる体制を整えているた

め、お客さまが望まれる製品を、必要なタイミングでご提供することが可能で、豊かなノウハウを独自の強みとしながら、あらゆるご要望にきめこまやかにお応えし、顧客満足度の高いビジネスを実現しています。

合併後に社屋と工場を 新設した四つの理由

2019年の3社合併に伴って、拠点を統合するために新本社と工場が一体化した建物を新設し、本年より本稼働を開始しました。これについては、四つの大きな理由があります。

まず一つめは、工場設備および生産ラインの配置の最適化。敷地は約9240平方メートルあり、従来の社屋と工場より大きくなったことでレイアウトの自由度が高まり、より理想的な生産環境を実現できました。以前の生産現場は、工場内の動線において合理性と効率性に欠ける面があったため、現場の意見を吸い上げつつ作業効率の改善に重点を置いて設計をおこないました。

二つめは、情報の伝達性を高めること。本社機能と工場を一体化することで、情報共



新しく導入した新型印刷機



大きくなった工場は動線にゆとりができた



広々とした食堂



商談スペース

有の精度と速度を高めるのに大いに役立っていると感じています。一部はオートメーション化しているとはいえ、人の目や手による作業も少なくない中、いかにロスや不良品を出さないようにするかは、現場と生産管理部門、品質管理部門の密な連携、タイムリーな動きが不可欠であると考えています。

三つめは、食品加工部門の増設。お客さまのお困り事を解決に導く当社の事業姿勢から、ある食品会社さまより包装への食品封入作業を請け負う形となり、その作業のために食品加工専用室を工場内に設けました。端的

に言えば食品の袋詰めですが、これをきつかけとして、食品加工事業の更なるニーズにもできるかぎりお応えしていくために、新部門を増設した次第です。

そして、これがもっとも肝心な部分ともいえますが、社員が心身ともに快適に働け、生産性の向上を実感しながらやりがいを感じる生産性の向上を整備が四つめの理由です。会社の合併によって従業員が増えた分、そのためのスペースが必要となったのが発端ですが、手狭になった作業場を広くするだけでなく、100名は収容できる食堂、ゆつたりと

くつろげる休憩室、広く使いやすい駐車場も設けました。社員が過ごすあらゆる場所が、清潔で快適、居心地のよい空間となったことで、生産性の向上のみならず、一人ひとりの労働意欲向上が期待できる場になったとらえています。

そして、当社にとって大事なものは、新本社と工場の稼働開始はあくまでも通過点だということ。今後とも作業効率と生産性向上のための継続的な精査と改善をおこなっていきます。

初代の思いがもたらした 福岡銀行との関係

新拠点の建設に際しては、メインバンクである福岡銀行の久留米営業部に相談のうえ、FFGビジネスコンサルティング（以下FFGBC）につないでいただいた経緯があります。

新本社と工場を一体化させた建物を造るといっても、何から手を付ければいいのか、どう進めればいいのか、私たちには設計や建築に関する専門知識がない状態で半ば途方に暮れていたところでしたので、さまざまな場面でお力添えをいただき、本当に感謝しています。建設業者の選定から関わっていただき、設計などの打ち合わせにも毎回、同席いただいて、その都度的確なアドバイスに助けられました。

たとえば、見積もり一つをとっても、私たちには建設会社の示した金額が妥当なものであるかどうかの判断もつきません。比較検討や判断の材料となる助言を、間に入ったFFGBCからいただけたおかげで、新工場への導入をあきらめていた設備まで手に入れるこ

とができただけで、当社の今後を左右する一大プロジェクトをなんとか成功させることができました。私たちだけでは、とうてい乗りきれなかったのは明らかです。

そもそも福岡銀行との付き合いは、初代代表の目野の頃から始まっています。当時の目野と支店とのやりとりがどのようなものだったかはわかりませんが、目野は福岡銀行をよほど気に入ったものと見え、銀行との取引に関しては「うちは福岡銀行だけ」と決め、それを覆すことはしなかったようです。

「かゆいところに手が届く」 存在でありたい

新しい社屋と工場ができたことは、周りに目立つ建物の少ない地域にとって一つの刺激となったようで、地域のさまざまな方々のお付き合いが始まる契機にもなりました。たとえば、地域にある神社の社務所建て替えでは、わずかばかりですが寄付をさせていただき、ご縁を得ました。一つひとつの出会いとつながりを大切にして、その積み重ねの結果が地域貢献や社会への奉仕につながるのな

ら、地域経済の発展を担う企業としての役目を少しでも果たせるのではないかと考えています。

お客さまのご要望をかなえる姿勢をこれからも崩さずに事業を進めていくのはもちろん、多くのお取引の実績によって構築した各業界とのネットワークをもとに、それを最大限に活かす取り組みにも力を入れていくつもりです。具体的には、お客さま同士を引き合わせてそれぞれのお困り事を解消する、ビジネス・マッチングのような取り組みにまで活動を発展させていくのが理想。創業時と変わらず、お客さまに寄り添いながら、お客さまの「かゆいところに手が届く」、そんな存在であり続けたいです。

お問い合わせ

株式会社 FFG ビジネスコンサルティング
不動産ソリューション部
福岡市中央区大手門一丁目8番3号
FFG本社ビル
TEL. 092-723-2372

一級建築士や宅地建物取引士等の資格を保有し、豊富な経験を持つスタッフが、貴社が抱える様々なニーズに対応します。



田端主任コンサルタント（一級建築士）

地域とつながる FFG連携プロジェクト

私たちFFGは、「地域と共に未来を創っていくこと」をスローガンに、
観光・農業・雇用・産業・健康・教育など様々な分野での地方創生に取り組んでいます。
今回は、八女郡広川町の地元事業者と連携した地域の新たな魅力づくりについてご紹介いたします。



進化を続ける伝統的工芸品「久留米絣」の魅力発信、販路拡大支援

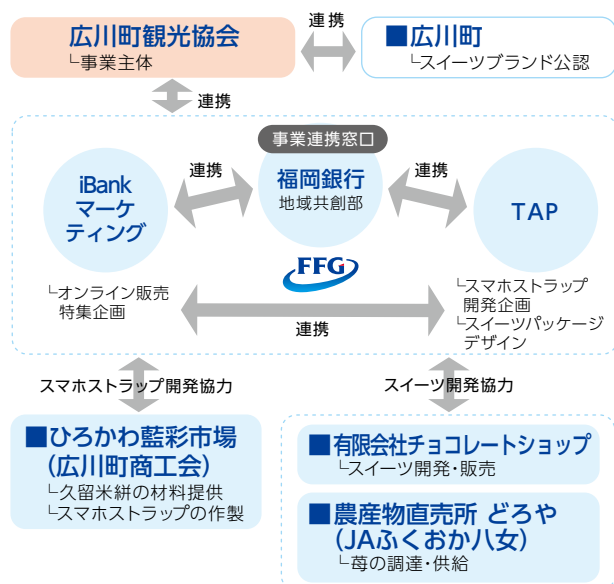
くるめかすり

広川町は、福岡県南部八女郡に位置し、一級河川筑後川水系「広川」が流れる自然豊かな地域です。農業が盛んで、いちごなどのフルーツをはじめ、西日本一の生産量を誇るガーベラや八女茶が生産されています。また、国指定の伝統的工芸品「久留米絣」の工房が県内で最も多く残る一大産地で、町を代表する産業です。久留米絣は江戸時代末期から伝わる綿織物で、素朴でありながら精巧な美しさが特徴です。完成までに30もの工程があり、一反（長さ12m）が出来上がるまでに約2〜3カ月を要します。技術を現在へと受け継ぎながら2000年以上経った今でも日本全国で愛され続けている織物ですが、主な購買層が高齢者ということもあり、新たな購買層の獲得が課題となっています。

そんな広川町では、近年、^{たいばる}太原地区にあるイチヨウ並木「太原のイチヨウ」がSNSで話題となり、年間約6万人の観光客が訪れています。太原のイチヨウは11月中旬〜下旬になるとあたり一面が黄金色に染まり、圧巻の景色を一目見ようと多くの人で賑わいます。一方で、写真撮影後に町を離れてしまうため滞在時間が短く、地域での消費促進が求められています。

そこで今回は広川町観光協会と連携し、久留米絣の認知拡大と地域消費拡大を目的として、観光庁の「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた

■お土産開発スキーム図



観光コンテンツ造成支援事業(※1)に応募・採択され、その支援を活用したお土産品開発を実施しています。本事業においてFFGグループ企業である、TAPやiBankマーケティングと連携し、お土産品開発支援および販路拡大支援を行っています。

具体的には、お土産品開発支援をTAPと連携、若年層や外国人観光客などをターゲットにした久留米絣を用いたスマートホストラップの作製や新たなお土産品となるスイーツの開発に取り組んでいます。

スマートホストラップについては、イチヨウの見頃の時期である11月に開催された「広川いこか祭」が行われているエリアの中で、先に紹介した太原地区にて



太原地区にてストラップ販売



久留米餅を使用したスマホストラップ



チョコレートの商品イメージ

紹介・販売を実施。久留米餅の新たな価値を見出すことで購買層拡大を目指しました。

次に、スイーツは、有限会社チョコレートショップ（※2）と連携し、広川町の特産品であるいちごを使用したチョコレートを開発中です。開発したチョコレートは、2024年2月に開催予定の「ひろかわまつり」にてお披露目し、販売するとともに、チョコレートショップの店舗でも販売を予定しています。商品のパッケージにもこだわり、久留米餅をあしらった特徴あるパッケージを製作し、久留米餅を知らないターゲット層への認知度向上につながる商品を目指しています。

開発した2つのお土産品は、iBankマーケットが運営する地域共創型オンラインストア「エン

ニチ」内で久留米餅の魅力をPRする特集企画

（2024年1月末実施予定）の中でも販売予定です。これからも久留米餅が幅広い層に支持されるためにチャレンジを続けていきます。

今後もFFGは、お取引先の業績に貢献する取り組み（本業支援）や、地域の課題解決・活性化に繋がる取り組みを行ってまいります。

※1インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業

観光庁の公募事業。本格的な再開が見込まれるインバウンドの地方誘客や観光消費の拡大を促進するため、観光事業者が連携してインバウンド向けに地域に根差した観光資源を磨き上げる取り組みの支援を目的としている。

※2 有限会社チョコレートショップ

1942年創業。福岡市博多区に本店を構え、博多のチョコのはじまりどころとして親しまれている洋菓子専門店。代表作の生チョコレート「博多の石畳」をはじめ、食の安全を徹底し、素材の良さを最大限生かすチョコレート作りを続けている。

FFGは地域が抱える課題解決や 地域経済の活性化に取り組んでいます

FFG地方創生の
取組事例はこちら

ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア

 bank baton



地方創生に関するお悩みをご相談ください

- 観光振興
- まちづくり
- 産業振興
- エネルギー
- 教育文化芸術
- ヘルスケア

ふくおかフィナンシャルグループ
営業統括部 地方創生推進グループ
【お問い合わせ】TEL (092) 723-2254



福岡銀行 地域共創部 瓜生
【お問い合わせ】092-723-2254



海外駐在員事務所が伝える

グローバルの今

FFGでは、独自のネットワークを活かしてお客さまの海外ビジネスを総合サポートをしています。

今回、上海駐在員事務所の西村所長に現地の情報やビジネスについて伺いました。

Question

現地の状況について
教えてください



資料1 展示会の様子

A 人口約2,400万人を誇る中国最大の経済都市である上海で開催される展示会には、世界各国から人や企業が集まってきました。中国で開催される国際的な展示会は上海が最も多く、毎年300件ほど開催されています。一昨年と昨年の展示会は、新型コロナウイルスの影響により半数程度の開催となりましたが、今年の展示会開催数は概ね新型コロナウイルス前の水準まで回復し、展示会への出展社数や来場者数も従来の水準に戻っています【資料1】。

Question

現地企業の声を
聞かせて下さい

A 上海で展示会のブース設営や運営サポートを行っている現地企業に話を伺いましたので、ご紹介致します。

「現地企業の声」

上海では、大規模な総合展示会から、中小規模で専門性が高い展示会まで、様々な展示会が開催されています【資料2】。展示会へ出展を検討される場合、まずはどの展示会に出展するのかを決める必要があります。弊社が、これまで現地で展示会のサポートをさせていただいた経験から、予算の都合やトライアル的な意味合いで10㎡程度の最小単位ブースで出展を検討されるのであれば、大規模な展示会は避けたい方がよいと思います。上海では、例えば展示面積367千㎡(福岡PayPayドームの約5倍)、来場約100万人という大規模な展示会も開催されていますが、小規模のブースで出展した場合、

大手企業の派手な演出やブースの広さに埋もれてしまう可能性があることが理由です。狙い目としては、有力バイヤーや購買意欲の高い消費者が集まりやすい、中規模で専門色の強い展示会への出展をお勧めします。

資料2 今後開催予定の上海の展示会情報

No	日程(2024年)	イベント名	規模・区分	特徴
1	4月18日～20日	IE expo China 2024- 第25回中国環境博覧会	中小規模・専門展示会	・上下水処理システム、水の管理における機械工学及びプラント工学、水力工学、ごみの管理及びリサイクル
2	5月22日～24日	CHINA BEAUTY EXPO 2024	大規模・専門展示会	・化粧品、美容関連用品展示会 ・世界三大化粧品展示会の一つ
3	5月15日～17日	NHNE 2024 - 栄養食品・サプリメント展	中小規模・専門展示会	・自然健康及び栄養食品に関する博覧会
4	5月28日～30日	SIALL China 2024	大規模・専門展示会	・中国最大級の食品関連展示会
5	6月13日～15日	CHINA AID 2024 - 上海国際福祉機器展	中小規模・専門展示会	・介護・福祉展示会 ・健康管理、補助機器、リハビリ医療、介護サービス、住宅建築等
6	7月3日～5日	AMTS 2024 - 上海国際自動車産業総合展	中小規模・専門展示会	・自動車製造関連の見本市
7	7月17日～19日	The 23rd Shanghai International Children Baby and Maternity Products Industry Expo	中小規模・専門展示会	・マタニティ・ベビー用品関連展示会
8	9月11日～14日	China (Shanghai) International Furniture Expo 2024	中小規模・専門展示会	・家具・インテリア関連展示会
9	9月24日～28日	第24回 中国国際工業博覧会 2024	大規模・総合展示会	・中国最大級の国際工業展示会
10	11月5日～10日	第7回 中国国際輸入博覧会 2024	大規模・総合展示会	・中国最大級の国際総合展示会

初めて海外の展示会へ出展を検討される場合は、不明な点や不安も多いかと思いますが、現地で日本語にてサポートできる企業は多数あり、特に上海は日本語で対応可能な現地企業が充実していると思います。展示会をきっかけに、長期的な取引が続いているお客さまも多くいらっしゃいますので、ビジネスの拡大のため挑戦してみても如何でしょうか。

駐在員事務所の活動事例を紹介して下さい

A 上海駐在員事務所では、お客さまサポートの一環としてご依頼に応じた展示会情報の収集も行っていますので、上海の展示会にご興味ございましたら取引店にご相談ください。なお、上海駐在員事務所では展示会情報の提供のほか、展示会出展時に現地で通訳手配やブース設営などの出展サポートができる企業のご紹介も行っています。

海外ビジネスを目指すお客さまへメッセージをお願いします

A これまで数多くの海外販路拡大に関するサポートをさせていただきましたが、海外でのビジネスの成功のカギの一つは、代表者や担当者の根気強さだと感じています。海外企業と取引を行うには、文化、言語や規制が異なり、想定どおりに物事が進まないこと

も多いため、労力や時間を惜しまず粘り強く対応することが肝要であると思います。

また、展示会出展の際には、中小企業庁等が募集を行う補助金を活用されているお客さまもいらっしゃいます【資料3】。補助金は募集開始から応募までの期間が短いケースも多く、応募資料作成には労力も必要ですが、採択されれば費用の負担軽減に繋がります。

海外への事業展開に向け、商品の開発や改良を行い、販路拡大したい方へ！

JAPANブランド 育成支援等事業費補助金

このようなお悩みを抱えている事業者さん必見！

- ✓ 海外向けの商品を製造し販売したが、商品の売上げが伸び悩んでいる…
進出先の商習慣や文化を事前に調査し、対応した商品を開発することが重要となります。当補助金では市場調査から販売戦略立案に係るコンサル経費の補助を受けることができます。
- ✓ 海外向けに商品開発や自社製品の改良をしたい！
進出先の市場に合わせた商品開発・改良費用、試作品のテスト販売（※）、知財財産権取得費用に係る経費の補助を受けることができます。
※テスト販売により収入が発生した場合は、補助金の減額措置が効きます。
- ✓ 現地の展示会に出展したいが、旅費や出展費用の負担が重い…
展示会は自社製品の強みや魅力を伝え、商談に繋げることのできる重要な場となります。当補助金では出展費から運営サポート費用まで一連の経費の補助を受けることができます。
- ✓ 海外展開事業に取り組みたいが、相談できる知り合いの専門家がない…
補助事業を通して、海外展開における専門知識を持つ「支援パートナー」が提供する支援サービスを受けることができます。
詳細は裏面にご確認ください。

補助額：上限 500万円
※1社ごとに500万円上限額を上限とし、最大で2,000万円

補助率：補助対象経費の2/3
※ただし、採択3年目事業又は国内販路開拓部分は1/2

中小企業庁

資料3 過去に募集があった補助金の一例



現地のおすすめや
過ごし方を
ご紹介下さい



資料4 プラタナスの並木道

上海には、100〜150年前にフランス租界が置かれたエリアがあります。このエリアには今でも当時の欧風建築物が残っており、道路沿いのプラタナス並木道と調和し、まるでヨーロッパにいる様な雰囲気を感じることが出来ます。ベストシーズンは、新緑または紅葉が彩る季節で、プラタナス並木道の美しさが更に際立ちます【資料4】。有名な観光地ではありませんが、上海市民に愛される、私のオススメスポットですので、時間があればぜひ足を運んでください。

vol.27

START UP Company

今月の注目スタートアップ

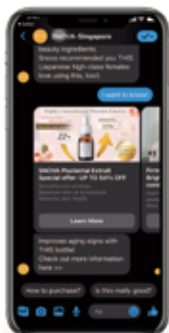
ここで紹介するスタートアップ企業は、ふくおかフィナンシャルグループの投資会社
FFGベンチャービジネスパートナーズが運営するベンチャーファンドが投資しています。

OneAI

サイトからの離脱防止
ポップアップ表示



チャットヒアリング
ユーザーニーズを把握



プッシュ配信
エンゲージメント



CVR 8%超
CPA 20%減

#成果報酬型
チャットリターゲティング
「ChiChat」

なぜこの事業をしているか

株式会社OneAIは、「AIと人間の共生で無限の可能性を創造する」をビジョンとして掲げ、AIと人間の共生社会性を目指しています。当社は、人工知能の進化がもたらす革新的な変化を日本や台湾から世界へと広げる使命を担っています。デジタル時代における企業の課題解決に貢献し、AI技術を通じて新たな価値を創造することで、社会全体の発展に寄与することを目的としています。

事業内容

現在の主力事業は、高いコンバージョン率（CVR）を実現するクリエイティブ生成AIを活用したチャットマーケティングサービス「ChiChat」です。このサービスは、Web



サイトでの離脱率を減少させ、オンラインでの新規ユーザー集客の効率化を実現します。特にCookie規制の影響を受ける既存のリターゲティング手法に代わるソリューションとして、このチャットマーケ

ティングツールは、通販、金融、不動産、フィットネス・エステなど様々な業界で有効です。平均8%という高いCVRを実現することに加え、BtoBのSaaS型ビジネスモデルを採用しながら成果報酬型の料金体系を提供することで、導入企業にとつてのリスクを最小限に抑えることができるため、多くの企業にとって有効なソリューションです。

今後の展望

高いCVRを実現するクリエイティブ生成AIは日本・台湾で特許承認もされ、これを当社のコアコンピタンスと位置付け、OneAIと名付けています。このOneAIを核とし、広告バナー生成やショートムービービジネスなど、さらに多様な新規ビジネスの創出を目指しています。台湾を多言語オペレーションの拠点として位置づけ、日本、香港、シンガポール、タイなどのグローバル市場へのサービス展開を計画しています。これにより、当社はAI技術の進化を生かし、さらに広範な業界や市場への貢献を目指します。

2020年4月のサービスリリース以来、台湾と日本で230社以上の企業にサービスを提供しており、今後も更なる成長と拡大を目指しています。当社の技術とサービスが、企業のデジタルマーケティング戦略を支え、新たな顧客獲得とビジネスの成長を加速させることを期待しています。



会社概要

株式会社OneAI

代表取締役 石川真也

所在地 福岡県福岡市中央区大名2丁目6番11号

メールアドレス support@one-ai.inc

ホームページ https://one-ai.inc/





ゴルフコーチ 篠塚 武久先生が 本当に伝えたかったこと。

時松隆光プロ×篠塚武久コーチ対談3回シリーズを終え、
編集部宛てに篠塚先生から一本の電話が入りました。
「対談では語り切れませんでした、
ゴルフのことでお伝えしたいことがあります！」
せっかくなので篠塚先生にアフタートークとして
思う存分語っていただくことにしました。



篠塚武久(しのづか・たけひさ) 1945年5月27日生まれ、78歳。
福岡市で「桜美ゴルフハウス」を主宰。福岡大学の石田迪夫教授
と共同で作上げた「OSゴルフ理論」で時松隆光プロをはじめと
するトッププロゴルファーを多数輩出。自身も日本オープン4回出場
など、トップアマとしての実績がある。

「10本で握る テンフィンガースウィング」 篠塚武久 著 ゴルフダイジェスト社▼

桜美ゴルフハウス

住所：福岡県那珂川市後野
571(筑紫ヶ丘GC内)
電話：090-2392-5454



時松プロ×篠塚コーチ
過去3回の
対談はコチラ！
「GOLF TALK」



僕の師匠です！



プロゴルファー
ときまつ りゅうこう
時松 隆光 氏

長らくゴルフ業界に携わり ゴルフについて思うこと

心と体の健康の為に ゴルフが有効

トップアマとしての実績を積み、福岡県で「桜美^{おうみ}ゴルフクラブ」を主宰、ジュニアを中心にアマチュアゴルフアートを指導しています。約30年前、福岡大学の^{おおいし}大石迪夫^{みちお}教授から「固定概念は捨て去り、ゼロからゴルフスウィングを分析しましょう」と言われ、つくりあげたのが桜美式「OS理論（ちなみにOは大石教授、Sは篠塚が由来）」です。源蔵君（時松隆光プロ）のおかげで桜美式「OS理論」（テンフィンガー）も世の中にだいぶ浸透してきたと思います。長年ゴルフ業界に携わり、その変遷を見てきたからこそ、70歳を過ぎた頃からゴルフのあるべき姿について思うようになりました。

今日の社会はインターネット産業の発展により、大きく生活環境が変わってきています。多くの便利さの代償に人々は体を動かさず、頭も使わず、会話も少なくなり、人間としての一番大事な心と体の健康が失われようとしています。

私たちは、スマートフォンやPCを使わない時間を確保し、友人、家族とのリアルな会話を持つことが重要です。老若男女、あらゆる垣根を越えてコミュニケーションができ、一緒に運動する、その条件を備えたスポーツがゴルフなのです。

ゴルフがほかのスポーツと決定的に違うことは自然をバックにプレーできるということです。そこでは日頃

ゴルフは親子3世代が自然の中で 会話しながら楽しむスポーツです。

の会話不足を補うに十分なコミュニケーションが交わされます。また、子どもたちは自己責任と礼儀作法を学ぶことができます。

昨今、いじめや殺傷事件など、子どもの問題行動が多いのは家族間の会話が少ないことも一因ではないかと思っています。自然のなかで子どもたちが伸び伸びとゴルフをすれば、学校内・家庭内での諸問題の解決に大きく効果を期待できるのではないのでしょうか。

お父さんだけゴルフから 家族でゴルフの時代に

私が一番お伝えしたいことは「ゴルフを家族で楽しんでほしい」ということです。ゴルフは心と体の健康をサポートします。お子様の能力があればプロへの道も拓けます。ゴルフは社会に出ても続けられます。

お父さんだけゴルフという時代はもう過去のもの。これからは、おじいちゃんおばあちゃん、お母さん、子ども、家族でゴルフを楽しむ時代です。

特に、おじいちゃんと孫の組み合わせはお勧めです。「お父さんゴルフばかりしている！」と責められないように、お母さんもぜひ誘ってください。

会社のゴルフコンペで家族を招待して、ゴルフ場を歩くだけ、ついてくるだけでもいいのです。ゴルフを好きになつてもらうことが大事です。

ゴルフは野外スポーツです。歩くという健康の原点があり、ハードなスポーツではありません。老若男女が楽しめる生涯スポーツ、それがゴルフです。ぜひ、ゴルフの楽しさをみんなで分かち合いましょう。



2023年度第1回 「熊本銀行 若手経営者の会」開催!

2023年11月22日(水)、熊本銀行は、中國信託フィナンシャル・ホールディング(以下、CTBC)執行役 蕭 仲謀氏をお招きし、2023年度第1回「熊本銀行 若手経営者の会」を開催いたしました。

熊本銀行が主催する若手経営者の会では、次の時代を担う次世代・若手経営者の方を対象に、経営に適した講演会・セミナーの開催や、異業種の方及び当行経営陣との交流会を開催しています。

コロナ禍の影響で約4年ぶりの開催となる本会では、講演会81名、懇親会74名と多くの次世代・若手経営者が参加され、野村頭取と蕭執行役からの講演会を実施しました。

野村頭取からは、「熊本県の経済について」というテーマで、熊本経済の推移やトレンド、地域活性化のためへの重要となる取り組みについて説明があり、FFGのデジタルツールやサステナブル経営支援など様々なサービスメニューについての紹介がありました。

その中でも「2021年10月のTSMCの熊本進出発表以

降は、全国、九州平均を上回る成長が続いており、熊本は復興のステージから成長のステージに移行したと言えます」と、半導体産業の発展とそれに伴う地域経済への大きな期待感を表明しました。

また、2022年12月にFFGと提携したCTBCとは、台湾と九州をつなぐ架け橋として、提携の枠組み拡大による効果を、熊本・九州全域に波及させるべく連携をすすめています。

蕭執行役からの講演では、「台湾近現代史、経済概要および

びビジネス慣習について」というテーマで登壇され、台湾の企業の特徴やビジネス慣習、接待文化など、これからの連携が更に密になることを見据えた内容をご講演いただきました。

講演会後には懇親会を開催し、今後の熊本経済を担う方々と親交を深める場となりました。

熊本銀行では、今後もブランドスローガンの「あなたのいちばんに。」を実現すべく、人、地元企業、地域経済の発展に貢献し、お客さまと当行が共に持続的な成長を実現していく取り組みを行ってまいります。



野村頭取の講演



蕭執行役の講演



懇親会の様子

人手不足時代に立ち向かう九州

～労働供給制約下の持続的成長に向けて～

1967年に創刊し今年で57回目を迎える九州経済白書。今回のテーマは「人手不足時代に立ち向かう九州～労働供給制約下の持続的成長に向けて～」です。

九州地域では、少子高齢化の進行と労働需給のミスマッチによる労働需給ギャップから、全国に先んじて人手不足が深刻となっています。また、企業活動においても働き方改革法案の施行や多様な働き方への対応、外国人労働者受入政策の転換等、労働や働き方をめぐる環境が変化し、対応が求められる局面にあります。2024年版九州経済白書では、九州地域における人手不足の現状分析や将来予測を行うとともに、企業における人材不足や働き方改革への対応、企業・地域の先進的な取り組みの分析を行い、企業・地域の今後のあるべき姿を検討します。

参加無料
300名



総論	1. 九州の労働市場の構造変化 2. 人手不足地域・九州の未来 3. 労働環境変化に対応する企業とその効果 4. 省力化・AI技術の進展と九州企業 5. 外国人受入政策の転換と九州 6. 労働市場の展望
各論	1章 意識変化に対応した働き方改革とその効果 2章 人手不足業種における省力化技術の導入と効果 3章 外国人受入政策の転換

※説明会当日、2024年版九州経済白書を会場特別価格2,500円(通常価格3,300円)税込にて販売します。

地区	日時	会場・住所	主催・共催	申込締切	説明者
福岡	2月2日(金) 13:30～15:00	FFGホール 福岡市中央区天神2丁目13-1 福岡銀行本店地下	ふくおかフィナンシャルグループ 福岡銀行 福岡商工会議所	2月1日(木) 13:00	九州経済調査協会 調査研究部 次長 松嶋 慶祐
北九州	2月29日(木) 13:30～15:00	FFG北九州本社ビル 6F講堂 北九州市小倉北区 堺町2丁目2-18	ふくおかフィナンシャルグループ 福岡銀行 北九州商工会議所	2月28日(水) 13:00	
長崎	2月7日(水) 13:30～15:00	十八親和銀行本店 10F講堂 長崎市銅座町1-11	ふくおかフィナンシャルグループ 十八親和銀行 長崎経済研究所	2月6日(火) 13:00	
佐世保	2月28日(水) 13:30～15:00	FFG佐世保ビル 4Fセミナールーム 長崎県佐世保市三浦町1-26	ふくおかフィナンシャルグループ 十八親和銀行 佐世保商工会議所	2月27日(火) 13:00	

※聴講は無料です。

参加をご希望のお客さまは、下記URLもしくはQRコードからお申し込みください。

九州経済白書 検索

<https://www.kerc.or.jp/seminar/2024/01/222024.html>



【主催】ふくおかフィナンシャルグループ、福岡銀行、福岡商工会議所、九州経済調査協会

【お問合わせ】(公財)九州経済調査協会 総務企画部 担当: 牟田・加峯

TEL.092-721-4909 E-mail: hakusho@kerc.or.jp

Topics of the month

デジタルテクノロジーを活用した業種横断型ビジネスコンテスト
クロスセック イノベーション

「X-Tech Innovation 2023」 九州地区最終選考会を開催!

2023年11月30日(木)、FFGは株式会社北海道銀行、株式会社岩手銀行、株式会社七十七銀行、株式会社沖縄銀行と共同で、デジタルテクノロジーを活用したサービス・アイデアを発掘するビジネスコンテスト「X-Tech Innovation 2023」の九州地区最終選考会を開催し、受賞企業が決定しました。



最優秀賞を受賞した株式会社Boonのプレゼンテーション

9回目となる今年度は全地区共通テーマ『デジタルエコシステム』と、九州地区テーマ『AI活用による驚異』の応募テーマのもと、数多くの企業から応募があり、1次選考(書類)、2次選考(面談)を経て選出された10社によるピッチコンテストが行われました。

審査の結果、自動生産システム「Boon^{ブーン}」を活用し、飼料原料であるミルワームの生産の自動化、自律分散的な省人化、養殖魚の官能評価による飼料の最適化についてのプレゼンテーションを行った株式会社Boon(CEO橋爪海^{はしづめかい})が九州地区の最優秀賞に選出されました。

なお、2024年1月17日(水)には、各地区の受賞者によるグランプリファイナル(受賞者限定のピッチコンテスト)を東京・八重洲のダイアゴナルラウン東京にて開催を予定しております。

FFGでは、今後もデジタルテクノロジーを活用したサービス・アイデアの事業化支援や、地場企業とスタートアップ企業とのマッチング機会の提供などを通じて、オープンイノベーションの促進に取り組んで参ります。



登壇者・審査員のみなさま



株式会社 グルーヴノーツ 代表取締役社長
最首英裕氏による特別講演



FFG五島社長による開催挨拶



最優秀賞を受賞した株式会社Booonの授賞式



codeless technology 株式会社



forent 株式会社



株式会社テ일러ワークス



株式会社シーテックヒロシマ



株式会社アポロジャパン



有限会社バシフィックネットワーク



株式会社Samaria



株式会社Techno.send



株式会社SmartInn

■ 「X-Tech Innovation 2023」の九州地区大会登壇企業
【全地区共通テーマ】デジタルエコシステム

企業名	サービス名
株式会社テ일러ワークス	共創コミュニティの価値を最大化するAIメンバーマッチングサービス
株式会社シーテックヒロシマ	フジツボ絶対とるマンをつくりたいんじゃ
株式会社アポロジャパン	世界のこどもたちにユニバーサル絵本を
<最優秀賞>株式会社Booon	自動生産システム「Booon」を活用した食品残渣の地域資源化
株式会社Samaria	「JAPANMEDIA」

【九州地区テーマ】AI活用による驚異

株式会社SmartInn	スマホ1つで快適ステイ、無人AIホテル「スマホホテル」
有限会社バシフィックネットワーク	AIを活用し、水難事故を未然に防ぐ「AQUAGUARD」
株式会社Techno.send	画像ごとデータセットを構築するデータセットジェネレータ
<優秀賞>codeless technology 株式会社	写真一枚で現場のシステム開発を革進「Photolize」
forent 株式会社	AI提案型ツアー造成・予約システム「AI Outdoor」

Topics of the month

2023 Zero Carbon Day 開催

～西海市カーボンニュートラル社会実現への取り組み～

長崎県西海市にて、2023年11月16日(木)、西海市主催の脱炭素イベント「2023 Zero Carbon Day」が開催されました。2021年6月にゼロカーボンシティ宣言をしている西海市は、カーボンニュートラルを中心政策として掲げており、その一環である本イベントは、昨年度に引き続き2回目の開催となりました。

本イベントは、十八親和銀行も出資する西海市の地域商社「株式会社西海クリエイティブカンパニー※」が企画・運営を行っています。

※西海クリエイティブカンパニー

「人が減っても大丈夫な仕組み」をつくる、地域商社。

デジタルとデザインを活用し、おさかな朝市からAI開発まで幅広く、まちづくりコンサルを行う。



ヨガタイムの様子



西海市 杉澤市長の開会挨拶



屋内ステージのディスカッションの様子

昨年度に引き続き、西海市オリブベイホテルで第2回「ゼロカーボンイベント」が開催されました。当日は150名を超える参加者が来場し、今年度も大手企業から地元若手漁業者と多岐に渡るゲストスピーカーを迎え、脱炭素をテーマに16セッションを屋内と屋外の2ステージ制で実施しました。

屋内ステージでは、新産業の創造を目的としたビジネスサイドのトークをメインに、西海市を代表する企業様からエネルギー企業、モビリティ企業、GX企業が登壇。最新技術やデジタルの掛け合わせ等の先進的なトーク内容で、西海市が将来どう進むべきかについてをディスカッションしました。

屋外ステージでは、市民参加型の企画を中心に開催。地元企業の方々に登壇していただき、来



脱炭素をテーマにAIが生成したアート



出展ブース

場者との会話も交えながら、市民にとってより身近なテーマについてセッションしました。合間には、ヨガ＋ハーブティーの時間を設け、リラクゼーションした空間を提供。他にも、地産地消・サステナブルを共通項として、ステージを囲うように出展ブースを設置し、リユース波佐見焼での珈琲の提供や、地元農畜産物やSDGs雑貨等を販売しました。

また、会場内では、脱炭素をテーマにAIが生成したアート17点の展示を行いました。

本イベントを通して、ゼロカーボンシティ実現を目指す西海市の方向性を、域内外へ示すことができました。今後も、西海クリエイティブカンパニーは、西海市の脱炭素を中心としたまちづくりに対し、リアルとデジタルの両側面から取り組み、ローカルからイノベーションを起こし続けてまいります。

【イベント概要】

主催: 西海市
企画運営: 西海クリエイティブカンパニー
日時: 2023年11月16日(木) 10:00~17:00
場所: 西海市オーリーブベイホテル
目的: 年1回、環境関連企業や市民が西海市に集まり、繋がり仕事が生まれる機会を創造する。資源を守り未来へ繋ぐこと、脱炭素を中心に新産業を創り出すこと。

2ステージ制:

- ・屋内Green ビジネスサイド中心
- ・屋外Garden 市民活動中心+物販ブース

来場者: 150名(県内外企業や市民)

登壇者(敬称略):

Greenステージ(屋内)

株式会社大島造船所
 J-POWER電源開発株式会社
 ダイヤソルト株式会社
 KLIMA DAO JAPAN株式会社
 MORI NFT
 住友三井オートサービス株式会社
 総合電機株式会社
 日産自動車株式会社

取締役 下田 憲一
 執行役員 外村 健次郎
 執行役員 山田 文彦
 代表取締役 濱田 翔平
 代表取締役 橋村 純
 モビリティ事業企画室長 奥村 進吾
 代表取締役 佐藤 淳一
 日本事業広報渉外部長 高橋 雄一郎

Gardenステージ(屋外)

地元若手漁業者
 川添酢造有限公司
 西海市農林緑推進部
 (一社)山と海の郷さいかい
 Centella
 BugsWell株式会社
 株式会社大島造船所 農産グループ
 ひまわりStudio(ヨガ)

鈴木 勇汰郎、吉川 大輝
 久保 桂奈
 里中 秀明
 堀内 寛生
 村山みほ
 浪方 勇希
 永田 渉
 岡本 ひとみ

◆出展ブース *コンセプト: 地産地消、サステナブル

HOGET(ミカン、珈琲)
 大島造船所 農産グループ(トマト/ミカン加工品)
 川添酢造(酢、麴、味噌)
 ミクリヤ畜産(経産牛)
 山と海の郷さいかい(地元食品)
 =VOTE(アート雑貨)
 Seesaw zerowaste(オーガニック食品の量売り)
 Lunastella(アップサイクルアクセサリー)
 Kigae(波佐見焼シェアリングエコノミー)
 NICE PASS(紙袋リユース)

◆展示

ジェネレーティブAIアート
 「AIと考える脱炭素社会をつくるために必要な17のこと」

◆企画担当者

辻 和一郎
 十八親和銀行ソリューション
 営業部から西海クリエイティブ
 カンパニーに出向中



◆企業概要

社名 株式会社西海クリエイティブカンパニー
所在 長崎県西海市西彼町喰場郷1686-3
創業 2017年12月
事業 ブランディング、デザイン、デジタル、エネルギー、
 カリース、人材育成等
 AI「ばりぐっどん」シリーズは、ユーザー数360万人
 超を誇る

Topics of the month

西南学院大学×FFG提携講座 プレゼンテーション大会を GROWTH Iで開催!

FFGでは、銀行業務や金融への理解と興味を深めること、学生の柔軟な発想で地域課題の解決につなげることを目的に、西南学院大学との提携講座を実施しています。本講座では、銀行業務やFFGの取り組み紹介に加え、学生が地域課題に対する解決策を考えるケーススタディに取り組み、最終講座ではアイデア発表の場としてプレゼンテーション大会を開催しました!



最優秀賞に選ばれたグループの発表

西南学院大学との提携講座は2019年度より実施しており、今年度は嘉麻市と連携し、『SETOXKAMA PROJECT(※1)』を活かした「アウトドアシティ嘉麻(※2)」推進のチャレンジプロジェクト」というテーマのもと、観光資源の認知度不足や人口減少などの課題を解決するプロジェクトを広く募集しました。嘉麻市の魅力を活かしたアイデアを学生が考え、

最終講義ではGROWTH Iにてプレゼンテーション大会を行いました。「嘉麻市の特産品がもらえるスタンプリーツアー」や「クラウドファンディングを活用したアウトドア空間の磨き上げ」など多彩なプロジェクトアイデアが登場。「日本一満ち足りた時間の町」というコンセプトで短編映画作成を提案したグループが最優秀賞に選ばれました。

審査員として参加した嘉麻市産業振興課の課長補佐は、「全グループのアイデアが大変素晴らしく、ぜひ実現させてみたいアイデアばかりだった」と今後の実現に向け、期待を寄せていました。また、学生からは、「提案にあたってリサーチ力が身についた。社会人になったら今回の経験を活かしたい」との反応が寄せられ、分析力や企画力を高める機会の創出につながりました。

FFGでは、今後も地域が抱える



集合写真

る課題解決や地域経済の活性化に向けたアイデアの事業化支援および、産学官が連携した取り組みを通して人材育成も含めた地方創生を推進してまいります。

※1 SETOXKAMA PROJECT
嘉麻市の知名度向上や人口減少などの課題解決などを目的に実施している地方創生プロジェクト

※2 アウトドアシティ嘉麻
嘉麻市は「アウトドアシティ宣言」を行い、アウトドアの先進地とされるデンマークをモデルに「心地よい体験と時間を提供する」体験型観光を目指している

新春為替セミナー

「世界経済のプロに聞く! 2024年の為替見通し」

国際金融市場の第一線で活躍する為替アナリストによるセミナーです。
2024年の為替見通しや世界経済の展望を詳しくお伝えします。

開催日時	2024年1月29日(月) 15:00~17:00 (受付14:30~)
開催形態 (本セミナーは、参加方法を会場またはオンラインから選択いただけます。)	〈会場・オンライン同時開催〉 ①会場:福岡銀行本店4階セミナールーム(福岡市中央区天神2-13-1) ※受付は14:30より開始いたします。駐車場のご用意はございません。 近隣の駐車場または公共交通機関をご利用ください。 ②オンライン:Zoom配信 ※パソコンやタブレット、スマホがあれば、職場やご自宅にてお気軽にご参加いただけます。 ご視聴にかかる通信料は、お客さまのご負担となります。
内容	テーマ 世界経済のプロに聞く! 2024年の為替見通し テレビ東京「ニュースモーニングサテライト」でもおなじみの弊社チーフ・ストラテジストである佐々木が講演します。2024年の為替見通しや世界経済の展望を詳しくお伝えします。 講師 福岡フィナンシャルグループ チーフ・ストラテジスト 佐々木 融 【経歴】 1992年 : 日本銀行入行 1994年 : 同行国際局為替課で市場調査分析、為替介入担当 2000年 : 同行NY事務所外国為替市場を含めた、米国金融市場全般の情報収集・調査・分析担当 2003年 : JP モルガン・チェース銀行チーフFXストラテジスト 2009年 : 同行債券為替調査部長 2015年 : 同行市場調査本部長 2023年~ : 福岡フィナンシャルグループ チーフ・ストラテジスト(現職) 日経ヴェリタス為替アナリストランキング2016年及び2018~2021年4年連続1位 
参加費	無 料
主催	福岡フィナンシャルグループ・福岡銀行・熊本銀行・十八親和銀行・福岡中央銀行・FFG証券
定員	①【会場】先着50名 ②【オンライン】先着150名 ※申込時に参加形態をご選択ください。それぞれ定員になり次第、締め切らせていただきます。
申込締切	2024年1月25日(木)

参加をご希望のお客さまは、下記URLもしくはQRコードからお申し込みください。

<https://www.fukuokabank.co.jp/forms/pc/kawase202401>

お申込み・お問い合わせ先

福岡フィナンシャルグループ 営業統括部 海外戦略企画グループ
(福岡銀行グローバルソリューション部)

〒810-8693 福岡市中央区大手門1-8-3

TEL.092-723-2515 担当: 山下・倉富 (平日 9:00~17:00 但し銀行休業日は除きます)

申込コード



File.21

地銀9行 連携 レポート

水辺を活かした復興と 賑わいづくりへの取り組み

―宮城県名取市「かわまちてらす閑上」の事例より―

今回は、宮城県名取市閑上地区の復興と賑わいづくりへの取り組みをご紹介します。

「かわまちてらす閑上」のある宮城県名取市閑上地区は、仙台市の南に隣接する名取市の海沿いに当たるエリアです。古くから漁業や水産加工で栄え、日本一の食味を誇る赤貝や北限のしらす、明治より続く伝統の笹かまぼこなどの水産品で有名であったまちの風情は、2011年3月11日、東日本大震災に伴い発生し同地区に甚大な被害をもたらした巨大津波によって、ほぼ跡形もなく押し流されてしまいました。

震災後、閑上地区では復興に向けた取り組みが懸命に続けられました。その結果、2012年2月に仮設商店街「閑上さいかい市場」、2013年5月に「ゆりあげ港朝市」がオープンし、「ゆりあげ港朝市」で行われた競りへの自由参加や炉端焼きの提供などが一日最大2万人を



▲ゆりあげ港朝市での競りの様子(名取市提供)

引き付け、まちには徐々に賑わいが戻っていきました。

そうした過程を経た震災から8年後の2019年4月に整備されたのが「かわまちてらす閑上」です。国土交通省と名取市の支援を得て整備されたこの施設は、河川堤防に隣接する側面を利用した商業施設としては全国初となります。

「かわまちてらす閑上」が設置された元々の目的は、「被災事業者の再建の受入れ」「地域住民の買い物場」「市外からの来場者(観光客)の誘致」でしたが、名取川から遠く仙台市まで見通せる景観の良さなどもあって、地域内外から多くの人々が来場するようになり、現在では、年間40万人以上が訪れる人気スポットとなりました。

現在、「かわまちてらす閑上」には堤防側に飲



▲かわまちてらす関上(堤防側) (名取市提供)



▲かわまちてらす関上(市道側) (名取市提供)

食店やカフェ等が入居する2棟と、市道側に地元
の新鮮な食材を取り扱う産直市場や鮮魚店・土
産物店等が入居する2棟がそれぞれ整備され、
関上地区のランドマークとしてまちに賑わいをも
たらしています。

この3年ほどは「かわまちてらす関上」にとって
コロナ禍という試練がありましたが、今年は行動
制限がなくなったことや、昨年4月に名取川対岸
に設置された複合施設「アクアイグニス仙台」と
の相乗効果が得られることなどから、概ねコロナ

前の集客力を取り戻しているようです。

関上地区には、「かわまちてらす関上」を中心
に、様々な施設が設置されています。

その一つである「名取サイクルスポーツセン
ター」は、サイクリングロードやスケートボード
場などのスポーツ施設に加えて宿泊施設、天然
温泉などを完備したレクリエーション施設と
して2020年10月にリニューアルオープンしま
した。

同センターに付帯するのが温泉・宿泊施設
「輪りん^{りん}の宿」です。ここでは日帰り利用可の天然
温泉が湧出しているほか、宿泊客を100名収
容することが可能です。

「みちのく潮風トレイル 名取トレイルセン
ター」には、「ロングトレイル」と「歩く文化を発信
する施設」としてキッチンを備えた実習室やシャ
ワールームがあり、洗濯機などの貸し出しも行っ
ています。

また、2020年5月には、震災の記憶や教訓
を後世に伝承し、震災を風化させることなく防
災意識の醸成を図ることを目的とした施設とし
て「名取市震災復興伝承館」も開館しました。

これらの施設を利用した取り組みの一つが観



▲名取復興・国際サイクルフェスタでサイクリングに参加された方々(筆者撮影)

光庁の「観光再始動事業」として採択された「名取復興・国際サイクルフェスタ開催事業」です。

この事業は、県内唯一のサイクリング専用施設である「名取サイクルスポーツセンター」を拠点とし、名取市など東日本大震災の被災自治体を自転車で巡る「グルメライド大会」の開催や着地型旅行商品「グルメライド体験」の開発を行い、サイクルツーリズムの人气が高い欧州や台湾から閑上地区へのインバウンド誘客を狙った事業です。

この事業の特徴は、東日本大震災の被災地における国際的な自転車イベントとしては初の試みであることに加えて地元ブランド食材を活用したプレミアムな自転車ツアーであるということです。

「名取復興・国際サイクルフェスタ」は、10月14日、15日の2日間、台湾から来日した16名を含む総勢130名の参加を得て挙行されました。大会のクライマックスとなる15日のサイクリングは残念ながら雨の中での実施にもかかわらず全員が完走を果たしました。

ゴール地点での多くの笑顔からは、参加者にとってこのイベントが心から楽しめるものであったということが窺えました。今回、海外からの誘客

が成功したことによって、閑上地区に賑わいをもたらすメニューが、さらに追加されたということが言えるかと思っています。

「かわまちてらす閑上」は2021年には国土交通省による「かわまち大賞」に選定されていますが、いくつかある評価ポイントのうち、「商業施設の建設・運営により被災事業者自らが主体性をもって地域を盛り上げようとしている」との評価は、他の被災地にとっても参考になるものと考えます。

「かつての賑わいを取り戻す!」という事業者自らの熱い思いが強力なリーダーシップによって結実し、水辺を活かした復興と賑わいづくりの数々の成功体験を生んでいる今の閑上地区の状況は、今後も間違いなく、同地区の復興・発展を支えていくための大きな力であり続けるでしょう。

(文責:七十七リサーチ&コンサルティング 佐藤 渉)

日本全国 県境・地域を越えた 「様々なビジネスニーズ」にお応えします！

このようなビジネスシーンでお困りではありませんか？



全国の地銀9行連携 「地域再生・活性化ネットワーク」について

経営基盤・営業エリアが異なる地銀9行が、様々な情報・ネットワークを相互に活用することで、地域経済の再生および活性化を図るために構築した広域連携です。

県境・地域を超えて活躍する(今後検討される)お客さまのビジネスニーズ等に対して、全国の各エリアをカバーする地域金融機関が連携・協力して対応していきます。

- ①複数の地方銀行による資金供給(シンジケートローン・協調融資等)
- ②他エリアの地方銀行のネットワーク情報を活用して、M&Aや事業承継における相手方情報をご提供
- ③ビジネスマッチング業務にかかる他エリアの地方銀行のお取引先等をご紹介します



- 【注意事項】
- 本ネットワークは、協定書を締結した地方銀行9行の連携・協力に基づき運営されています。ご利用にあたり、お客さまのご要望・ニーズなど、必ずしもご期待にそえない場合がありますのでご了承ください。(個別具体的なソリューションのご提供を確約するものではありません。)
 - 本ネットワークのご利用を希望される場合は、お近くの取引銀行窓口までお気軽にご相談ください。(ご相談は無料です、但し、個別具体的なソリューションのご提供にあたっては、各銀行所定の手数料等がかかる場合があります。)

コンセプトを丁寧に掘り下げ
自分の考えや思いを服で表現

九州の星

Star of Kyushu

| 87 |

頑張るあなたを
応援するコーナーです



<装苑賞とは?>

ファッション誌『装苑』の創刊20周年を記念して、1956年に創設された日本を代表するファッションコンテストです。今までにコンノジュンコさんや故・高田賢三さん、山本耀司さんなど数多くの著名デザイナーを輩出しています。

「装苑賞」を受賞した上村さんの作品。左から虫、鳥、魚の目をモチーフにしている。ショーの間にモデルがファスナーやボタンを外すと、写真のように袖や裾が広がる仕組み

「第97回 装苑賞」

「NEW ENERGY特別賞」ダブル受賞

上村 英太郎

KAMIMURA EITAROU

Instagram

Age 22

山口県宇部市出身

福岡市在住

香蘭ファッションデザイン専門学校

ファッションデザイン専攻科

2023年3月卒業



22歳でファッションブランド「EITAROU」設立

エイタロウ

ファッションデザイナーの登竜門とされる装苑賞で、「第97回装苑賞」「NEW ENERGY特別賞」をダブル受賞した香蘭ファッションデザイン専門学校卒の上村英太郎さん。

受賞した作品のテーマは「第3の目」。「人間が見ている世界を動物の視点から見ると、新しい価値観が生まれるのでは」と、虫、鳥、魚の視点をモチーフに、スーツのフォルムが一転し、ハニカム構造（ミツバチの巣のような六角形の集合体）が現れる作品になっている。

受賞後の2023年10月に自身のブランド「EITAROU」を立ち上げた。今は、2024年2月に開催予定のクリエイションの祭典「NEW ENERGY

TOKYO」に向けて出展作品を作る日々。裁縫工場との打ち合わせなど、本人曰く「装苑賞の制作以上に忙しいです」とのこと。「ブランドを立ち上げると、服を作ることにとどまらず、売上やマーケティングなど、経営的な視点も必要になってきます」

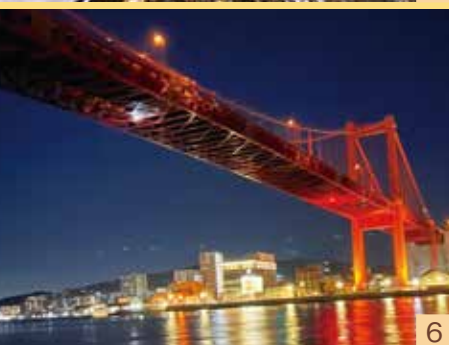
コンセプトアルな服作りが信条。「自分が着るよりも、自分が作った服を人に着てもらう方が嬉しい」

2023年9月にはフランスのパリ・ファッションウィークに行ってきた。

「ファッションショーはまるでライブのような高揚感。自分もいつかパリ・ファッションウィークでショーを開催したいです！」人生のデザインも始まったばかりだ。



▲写真上下、上村さんのブランド「EITAROU」



ちょっと釣り道

【釣り道のウラ道】

Vol.23

①真冬の山口周東の海は、まさしく日本海の冬景色。寒いとよ! ②各地のいろんな朝日のビームを浴びれるのは釣り人の特権 ③密かに筆者の専攻(笑)はアジングって鰭を釣るヤツ ④サゴン(鰭の幼魚)はもはやお馴染み。アジングでも釣れるんです ⑤九州の脊梁に潜む山女魚たちよ、永遠に... ⑥自分の視覚・色覚よりもiPhoneの画像が美しいやんて(笑)

12月号でネコさんの記事を書かせてもらった後、歩いて来た釣り道を振り返ってみました。

2021年の4月号がスタートで、はや22回の連載を続けさせていいただきました。第一回目の原稿を書いていたのが、2020年の12月くらいのことなので、ちょうど3年前ということになります。

はじめは、筆者の知人を記事化するのに鹿児島島に出張したこともあり、当時のFFGビジネスコンサルティングの代表から筆者の趣味の釣りのことでもなにか書いてみたら、といったずらつぽくご提言をいただいたことがスタートでした。

書く方も実はまんざらでは無かったのが本音のところですが、一方でFFGの歴史ある金融経済の冊子に「釣り」のこと!?という戸惑いもありました。趣味のことを書き出したらキリがないし、自分本位の文章になるのを避けるため、書かせていただくにあたり自らに課したことがあります。

①釣りの技術的なことは書くまい。②自分の一番得意とする釣りのジャンルについては書くまい。

確かに「釣り道」というタイトルではありますが、釣り自体のことよりも、美しく恵まれた九州の風土や自然、そしてその土地にまつわる歴史や民芸など自分が感じてきた魅力や物語を楽しくわかりやすく

伝えられたら、と考えてきました。

また、記事に必要な写真達。基本的には私個人の歴代のiPhoneの写メだけです。それに数万枚の撮り溜めがあり、そこから各テーマに沿う写真を選んでそれを記事化しただけなんです。逆にここ数年その釣りをしておらず、テーマを決めて慌てて釣りといった魚もあります。

例えば、二話前の雷魚。これはビジュアル的にはキモい魚の代表格なのですが、私の釣り遍歴を披瀝し佐賀市に住んでいた思い出を語る上で外せませんでした。

10年くらい前までは結構釣ってましたが、当然その頃の画像データはありません。10月の上旬には入稿しないと間に合わないので、何度か佐賀まで釣りに行きました。が、魚はアタックしてくれるけどバレたり(針が外れて逃げたり)して釣り上げきれず(泣)左手首の再手術が10月の第一週に迫る中、南国系の雷魚はそろそろ冬眠の季節。

10月7日に退院し、リハビリを兼ね9日に再トライし、日没寸前に魚がヒットしてくれ、ギリギリ校了にも季節的にも間に合いました。

まあ過去にも書きましたが、日本国内だけで数千種の魚種が息しています。そこまででないにして

も書くネタには事欠きません。

自分勝手に気ままに書かせてもらってきたことには本当に感謝なんです。が、連載を続けて来る中で協力していただいた方々を語らずにいられません。常に心地よくバックアップしていただいた編集のOさん、またお忙しい時間を割いて美しい写メを撮っていただいて協力していただいたi・t・o氏とM氏には感謝しありがとうございます。この場をお借りし御礼申し上げます。

：あとネコさん達にもね(笑)ほとんどが素人同然の私個人の写メと拙い記事にお付き合いただいたこと、ありがたいばかりか申し訳ない思いでいっぱいです。

お気づきの方がおられるかわかりませんが、経済の冊子の中にある違和感というか不自然とも言える釣りの記事。実はお伝えしたかったのは普段の日常やビジネスの合間からちよつとはみ出して、あるいは一歩踏み出してみるだけで、気づけなかった、垣間見えなかった美しい世界や心象風景がそこにあり、その新しいストーリーに触れられるということをお伝えしたかったのです。

私はたまたま「釣り道」をそぞろ歩きしてきたことで気づけたのかもしれません。皆さまもいろんな「道」を歩かれています。そんな「道」のハナシ、いつかお聞かせ願いたいですね。

長崎だより

長崎の情報を
お届けします

FPG調査月報の姉妹誌「ながさき経済」を発刊している、ふくおかフィナンシャルグループの長崎経済研究所。長崎の旬な情報を提供するコーナー「長崎だより」の今月号は、五島市地域づくり事業協同組合 事務局長 宮本恭子様より『合言葉は「五島のために」、安心して暮らし続けられる島へ。ひとりひとりの情熱が不可能を可能に変えていく。』と題し寄稿していただきました。

長崎経済研究所による「ながさき経済web」随時更新中!



当研究所が発信する最新の情報をメールでお届けします。

メールマガジンの登録はこちら▶



お問い合わせ

株式会社長崎経済研究所

長崎市銅座町1番11号
十八親和銀行本店内
TEL095-828-8859



ながさき経済web画面

長崎経済研究所とは

長崎県の経済・社会・産業動向などに関する調査研究及び企業経営や県民の生活のお役に立つ情報をご提供するとともに、各種経済・文化団体の事務局活動等を通じて、地域社会に貢献することを目指しております。



合言葉は「五島のために」、 安心して暮らし続けられる島へ。

ひとりひとりの情熱が不可能を可能に変えていく。

五島市地域づくり事業協同組合 事務局長 宮本恭子



2040年の日本を 体感できる島

日本全体の「20年以上先に行く少子高齢化率」であり、移住者が急増し、全国でも異例の「65年ぶりの人口の社会増」をかなえた島として、また「2040年の日本を体感できる島」としてワーケーションツアーも開催される長崎県五島市。

朝ドラや漫画のドラマ化で、旅行先としても希望していただく機会が増え、年間約20万人の観光客が来られます。福岡や長崎から飛行機や船でアクセスが可能な五島市福江島は、長崎市から西へ約100キロ、約1,200年前、のちの真言宗の開祖・空海が日本最後の地とし、遣唐使として中国に渡ったとされる西の果てにあります。

古くから人々が暮らしていた五島市ですが、約50年前には約9万人あった人口も、現在はおよそ1/3の約3万4,000人まで減少し、その高齢化率は40%を超えています。

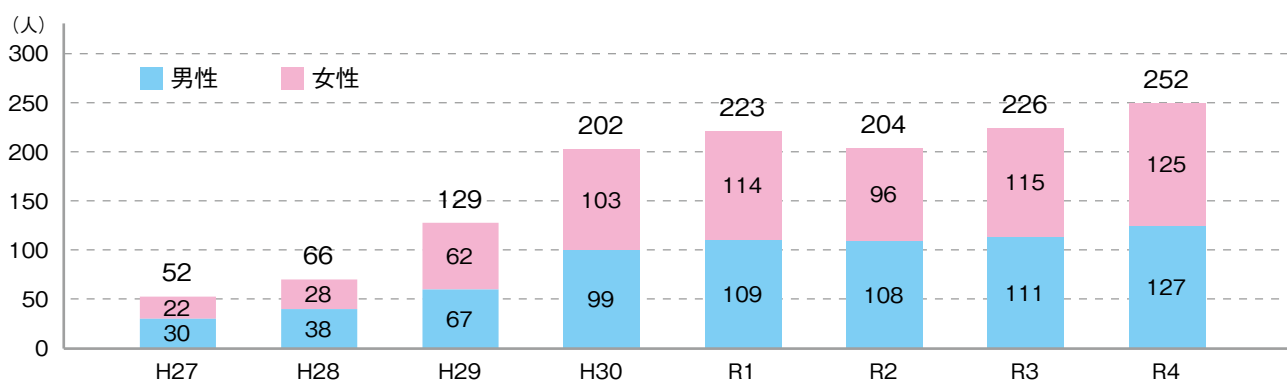


人口減少にともなう様々な社会課題がすでに表層化し「未来の日本の社会課題」をまさに今、取り組んでいる島でもあります。

課題を解決すべく開始された様々な取り組みは成果がはじめており、移住者は直近5年間連続で毎年200人を超え、合計1,000人以上が移住しています。移住者は20歳未満から60代以上まで幅広く、なかでも全体の約75%が30代までの若者。最近では家族連れや出産予定の夫婦が移住されるケースが増えています。

私自身も約8年前に地域おこし協力隊として東京から五島市へ移住しました。当時はインターネットで検索してもきれいな海の写真が数枚出る程度、宅急便は届くのだろうか、住まいはあるのだろうか、給料は東京時代の半分以下だが生活できるのだろうか、様々な不安がありました。友人の「行ってダメなら、帰ってくればいいよ」の言葉を支えに一度も訪問したことがない五島市に移住を決めたのです。

■市が関わった移住者数（年度）



五島市の移住の推移(五島市提供)

18歳の別れ

五島市で一番大きな福江島の面積は約326平方キロメートル。横浜市とほぼ同じ面積で、車で島を一周すると約3時間かかります。私が移住して一番の感想は、「こんなところが日本に！」。

美しい海と緑豊かな島で、米に麦、魚、野菜、卵、牛に豚に様々なものが生産・飼育され、古きよき日本の文化が色濃く残る場所で、自然に寄り添った暮らしをしている人が多いです。

2022年には、日本ジオパークに認定されました。その大地は、約2,200〜1,700万年前に大陸の砂と泥が川や湖で堆積した五島層群と呼ばれる地層が基となっており、その後、火山の噴火によって火山台地が形成されました。地質、地形、立地などから、多様な生態系、多種の魚に恵まれていることを活かし、農業、漁業も盛んです。

福江島の北部では粘土質の土壌

で、芋や麦がよく育ち、島のシンボルでもある鬼岳周辺では水はけもよく、野菜がよく育つ火山台地など、その土壌を活かした栽培がされています。

農業でも、漁業でも担い手の高齢化、人手不足は深刻です。例えば、芋の苗を植える6月など繁忙期には人が欲しいが、真夏の閑散期には多くの人を雇用し続けるのは難しいという現状もあります。五島市には4つの高校がありますが、大学や専門学校はなく、高校卒業と同時に進学のため多くの若者が島外に出ていきます。島では「18歳の別れ」と言われ、高校卒業とともに自宅を離れることを想定して暮らす学生さんは、都会よりも自立心が高いように感じています。

高校卒業後、島での就職を希望する若者もおられますが、希望あふれる社会人1年目の気持ちと実際の仕事のギャップで、せっかく就職しても早々に退職、職を求めて長崎市や福岡へ出ていく若者も多くいることが長年の課題でした。



情熱が不可能を可能に していく

過疎化対策でよい結果がでてきている一方、毎年移住される

200人以上の人々に住み続けていただくために、また、高校卒業後、島で社会人生活を継続していただくためには、「仕事」が必要です。これから担っていく若者が安心して

働ける環境があればと誰もが思う中、令和2年6月に施行された「地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律」は、地域内事業者の仕事を複

数組み合わせることで通年の仕事を創り出し、安定的な雇用環境を創出することで、人口流出を抑え、U・I・Jターンの促進により人口減少対策の要として期待が持てるものでした。

一方、へ人材を求める企業・団体と働きたい人をつなぐ新しい取り組みは魅力的だが、様々なハードルがあり、「誰もがうまくいかない」と思っていたなかで、福江商工会議所の清瀧会頭、山下副会頭が中心となつて出資企業（組合員）を募り、組合設立の道筋をつけられ、令和3年「五島市地域づくり事業協同組合」は設立されました。「五島のために」と奔走され、熱い情熱と島内企業の島への想いが不可能を可能としました。

五島市地域づくり事業 協同組合の魅力

組合職員はすべて月給制の正職員です。安定した収入を得られ、健康保険、厚生年金保険、雇用保険



有機安納芋の植え付け



水産加工食品（練物）製造風景



長崎新聞掲載_2023.7.31(職員研修)

など社会保険も完備し、夏季休暇、年末年始休暇、労働基準法に準拠した有給休暇等の休日も比較的多く、プライベートも充実させることができます。

また働き方は、マルチワーク型とインターンシップ型の2種類から選ぶことができます。マルチワーク型は、季節ごとに繁忙期が異なる農業、食品加工業など様々な仕事を組み合わせて通年勤務する働き方であり、インターンシップ型は、正職員として採用した上で、1, 2か月

程度の期間で様々な組合員企業で仕事を経験し、最終的に組合員企業への就職を目指す働き方になります。

このインターンシップ型は、企業としては「通年で人が不足しているが、採用したくてもなかなか応募がなく採用できない」、移住者、高校新卒者としては、「五島で働きたいがどんな企業があるのかわからない」「自分にどんな企業、仕事があるのかわからない」という声を反映し、双方をマッチングさせるた

めに導入しました。

設立3年目の現状と課題

設立当初、派遣先は17の企業・団体からスタートしましたが、組合職員の評判やこの制度に対する評価があいまって、この3年で10の企業・

団体が増え、令和5年8月現在、農業から観光、再エネ関連企業まで五島市内の27の企業・団体が加盟されており、11名の組合職員が勤務をしています。概ねどの派遣先(企業・

団体)でも組合職員の勤務は好評をいただき、五島市内でうまく機能しています。また派遣終了後の就職の打診も個別にいただいています。

一方、派遣制度になじみがない企業も多く、アルバイトとの違いが伝わっていないなど派遣先に対しての理解

醸成も課題となっています。また、派遣される組合職員にとっては、3〜4か月の短期間で派遣先が変わることもあり、職場に慣れたところには次の派遣先での勤務が始まることなど、毎回、新しい職場でのコミュニケーションにも苦勞するということをよく耳にします。

設立からの2年は、組合運営を軌道にのせることに注力していましたが、現在は組合運営も軌道にのり、今年2月には全職員を集めた意見交換会、夏には組合職員のリーダーシップ研修も実施しました。

今後、私たち組合事務局が、組合職員と組合員企業とのコミュニケーションを深め、双方をしっかりと橋渡しすることが務めであると考えています。

そして、組合が雇用における地域の課題解決に貢献し、それが地域活性化につながり、なくてはならない存在となれるよう日々の組合運営に取り組んでいきたいと思えます。



松崎 良太「富士山の朝」日本画 F4号

長崎県の郷土画家を紹介する 冬季企画展を開催中

冠雪した富士山が朝焼けに染まりゆく情景を描いた松崎良太の「富士山の朝」は、小品ながらも、雄大で美しい山容を描き留めています。刻々と移り変わる空の様相は、富士山を境に緑がかった淡い青と鮮烈な橙の対比で印象深く、紫色を基調とした山肌に棚引く雲には雲母が散りばめられて、澄み渡った空気が感じられるようです。

現在開催中の冬季企画展「郷土画家展」では、本作をはじめ、長崎の春の風物詩であるハタ揚げを題材とした清水崑の「ハタ幻想」や、古き良き長崎を描き伝えた田川憲の「長崎の庭(迎陽亭)」など、11名の画家による油彩画、日本画、水彩画、版画、全13点をご紹介します。

このほか、近代洋画、日本画、陶磁器、ロシアアイコンなど約140点の常設展示も行っております。また、陶磁器展示室2では陶磁器小企画「古伊万里展」を3月2日(土)まで開催しております。あわせてご鑑賞くださいませ。

※企画展の会期は、次回展の都合により変更する場合があります

松崎 良太(まつざき・りょうた):1939～。長崎県佐世保市生まれ。京都学芸大学(現、京都教育大学)特修美術日本画科卒業、同大美術・工芸専攻科修了。在学中に日展初入選を果たし、その後も入選、特選を重ねたほか、崇城大学芸術学部長を務めた。

十八親和アートギャラリー

[開館時間] 10:00～16:00(入館は15:30まで)

[休 館 日] 日・月・祝日、年末年始(12/30～1/4) ※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F TEL.0956-23-4856

西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分、JR佐世保駅から徒歩約20分

鑑賞
無料



郷土画家展

冬季企画展

Juhachi-Shinwa Art Gallery Winter Exhibition

2024年
3/2
(土)

まで